

国の重要文化財指定への足跡

新聞記事に見る

# 長久保赤水

Sekisui . Nagakubo

平成30年9月5日～令和2年11月24日



長久保赤水顕彰会

NAGAKUBO SEKISUI KENSHOKAI

11/24~12/27  
**①トップページ**  
 -EXPO2020、G空間を  
 安心・安全の力に。-

**下へスクロール**  
 今年は、災害や新型コロナウイルス  
 への対応など社会の安心・安全  
 にG空間情報技術が大きく貢献  
 していくことを願い、  
 「EXPO2020、G空間を安心・  
 安全の力に。」をテーマに開催  
 します。

**出展一覽**

概要	動画紹介
<b>出展者紹介</b>	
朝日航洋 (株)	アジア航測 (株)
あっとクリエイション (株)	(株) amuse oneseif
エアロセンス (株)	ESRIジャパン (株)
(株) オービーティー	(株) 快適空間FC
(株) かんこう	国際航業 (株)
国土交通省	国土交通省 国土地理院
高精度測位社会プロジェクト	
国土地図 (株)	
(国研) 産業技術総合研究所	G空間情報セン
人工知能研究センター	
(株) ジツタ	(一社) 地図測
(一社) 地理情報システム学会	東京カートグラフ (株)
内外地図 (株)	内閣府宇宙開発事務局 / 準天頂衛星システム (株)
長久保赤水 顕彰会	(一社) 日本測量
(株) パスコ	(株) フォーラ
福井コンピュータ (株)	(株) マツ
リーグルジャパン (株)	ルーチェサーチ

2 EXPO2020  
**地理空間情報フォーラム**

CPDポイント申請 ※申請書がダウンロードできます。  
 アンケート ※外部サイトにリンクしています。

概要 動画紹介  
**③ 出展者紹介**

地理空間情報フォーラム概要  
 要  
 スし各  
 だ

内閣府宇宙開発戦略推進事務局 / 準天頂衛星システムサービス株式会社  
 みちびきショーケース



長久保赤水 顕彰会  
 伊能忠敬より早い日本地図の先駆者 長久保赤水 知名度じわり

**画面をクリックして視聴**



【長久保赤水 顕彰会】  
 今年9月30日、長久保赤水資料群693点が国の重要文化財に指定。皆様に見てもらえるよう、未公開絵本動画「りゅうのひかり」、重文指定記念「長久保赤水特別展」、音楽動画のバラエティ3部作で赤水をご紹介します。

法人 日本測量機  
 で活用され、進化を続け  
 測測システム

長久保赤水 顕彰会：伊能忠敬より早い日本地図の先駆者 長久保赤水 知名度じわり



伊能忠敬より42年前に日本地図を作った長久保赤水資料群が、9月30日に国の重要文化財に指定された。赤水の日本地図「改正日本輿地路程全図」(通称「赤水図」)や貴重な資料の展示会と赤水の業績を動画により紹介。忠敬が測量に携帯した赤水図は、街道・航路と共に多くの地名と距離が記された近代的な地図である。浦賀にペリー艦隊来航時、江戸庶民が見ていた赤水図、幕末の100年間庶民に愛用され明治維新の原動力を醸成した赤水図、竹島記載で戦後の日本領土を確定させた赤水図。当顕彰会は1992年赤水生誕の地高萩市に設立され、赤水の生涯と功績を讃え広める活動や書籍発行等に取り組んでいる。赤水の地図制作の業績が歴史地理学的に明確に位置付けられることを願っている。教科書に載せて広げよう世界に！

LINK : <http://nagakubosekisui.org>

お問い合わせ:  
 長久保赤水 顕彰会 会長  
 佐川 春久  
[haruhisagawa@yahoo.co.jp](mailto:haruhisagawa@yahoo.co.jp)

**G空間EXPO 2020**

<https://www.g-expo.jp/>



長久保赤水 顕彰会  
 伊能忠敬より早い日本地図の先駆者 長久保赤水 知名度じわり

**紹介ページ**  
**画像は自動で切り替わる**  
 名度じわり



長久保赤水 顕彰会：伊能忠敬より早い日本地図の先駆者 長久保赤水 知名度じわり

伊能忠敬より42年前に日本地図を作った長久保赤水資料群が、9月30日に国の重要文化財に指定された。赤水の日本地図「改正日本輿地路程全図」(通称「赤水図」)や貴重な資料の展示会と赤水の業績を動画により紹介。忠敬が測量に携帯した赤水図は、街道・航路と共に多くの地名と距離が記された近代的な地図である。浦賀にペリー艦隊来航時、江戸庶民が見ていた赤水図、幕末の100年間庶民に愛用され明治維新の原動力を醸成した赤水図、竹島記載で戦後の日本領土を確定させた赤水図。当顕彰会は1992年赤水生誕の地高萩市に設立され、赤水の生涯と功績を讃え広める活動や書籍発行等に取り組んでいる。赤水の地図制作の業績が歴史地理学的に明確に位置付けられることを願っている。教科書に載せて広げよう世界に！

LINK : <http://nagakubosei.org>  
 お問い合わせ:  
 長久保赤水 顕彰会 会長  
 佐川 春久  
[haruhisagawa@yahoo.com](mailto:haruhisagawa@yahoo.com)

伊能忠敬より42年前に日本地図を作った長久保赤水資料群が、9月30日に国の重要文化財に指定された。赤水の日本地図「改正日本輿地路程全図」(通称「赤水図」)や貴重な資料の展示会と赤水の業績を動画により紹介。忠敬が測量に携帯した赤水図は、街道・航路と共に多くの地名と距離が記された近代的な地図である。浦賀にペリー艦隊来航時、江戸庶民が見ていた赤水図、幕末の100年間庶民に愛用され明治維新の原動力を醸成した赤水図、竹島記載で戦後の日本領土を確定させた赤水図。当顕彰会は1992年赤水生誕の地高萩市に設立され、赤水の生涯と功績を讃え広める活動や書籍発行等に取り組んでいる。赤水の地図制作の業績が歴史地理学的に明確に位置付けられることを願っている。教科書に載せて広げよう世界に！

LINK : <http://nagakubosekisui.org>  
 お問い合わせ:  
 長久保赤水 顕彰会 会長  
 佐川 春久  
[haruhisagawa@yahoo.co.jp](mailto:haruhisagawa@yahoo.co.jp)

## 国の重要文化財指定への足跡「新聞記事に見る 長久保赤水」を発行

このたび、国の重要文化財指定への足跡「新聞記事に見る 長久保赤水」を発行することになりました。お陰様で、内閣官房や文化庁、共同通信社、日本地図学会などの関係各位から度重なるご指導とご協力をいただき、国の重要文化財に指定されたことを深くお礼申し上げます。また、今回、G 空間 EXPO2020 地理情報フォーラムに、長久保赤水顕彰会で動画を展覧しました。動画の内容は、「りゅうのひかり・国の重要文化財特別展・あしたの風とひとつになって」の3部構成です。なお、G 空間 EXPO2020 「講演シンポジウム」でも日本地図学会と長久保赤水顕彰会で制作した「～地図は何を語る～長久保赤水が可視化した日本」の動画を全国で紹介していきます。さらに、12月5日・6日に北九州市小倉のゼンリンミュージアムから配信される日本地図学会小倉地方大会（オンライン）では、5倍拡大「赤水図」タペストリー展示もされます。そして、来年の1月30日・31日の日本地図学会の学術的な大会では、全国の学校の生徒なども参加可能な「赤水図」セッションの開催を企画検討いただくことになりました。12月1日現在、会員が669名と急増しました。「教科書に載せて広げよう世界に」、「ひよっこ」の次は大河ドラマ「長久保赤水伝」を実現しよう！を合言葉に、今後とも活動を続けていきます。現在、茨城新聞社の推薦で、長久保赤水顕彰会が地域再生大賞にノミネートされています。

## 会員1,000名を目指し新規の会員と新規の寄付者を募集中です

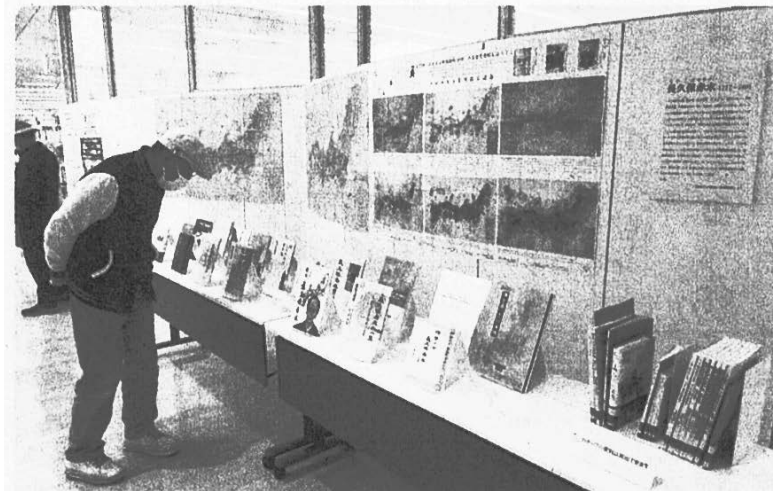
（四本の柱）長久保赤水顕彰会ではこの四本柱の目標を掲げて日々活動を続けていきます

- 1) 「教科書に 載せて 広げよう世界へ」
- 2) 「ひよっこ」の次は、大河ドラマ「長久保赤水伝」を実現させよう！！
- 3) 長久保赤水記念館（赤水旧宅・前新屋）の開館を目指そう！
- 4) 黒澤貴子著・単行本250P「マンガ SEKISUI'S Brain（赤水の頭脳）」原康隆著・単行本220～250P「マンガ 道、知るべ～続・長久保赤水の一生」出版事業…いずれも令和3年11月6日発行予定です。

## ○国の重要文化財指定を機に会員1,000名を目指します【新規会員と新規寄付者を募集中です】

お陰様で長久保赤水顕彰会の会員は、全国で669名（12月1日現在）に増えました。しかし、今後のさらなる活動を続けるためにも、新規寄付者からのご寄付（一口：一万円。何口でも結構です。）と新規会員の年会費3千円が必要となっております。ぜひ、長久保赤水顕彰会にご加入いただき、私どもの背中を押していただければと重ねてお願い申し上げます。すでに、会員になられている方には、ご家族や友人などにお声掛け下さるようお願い致します。ご寄付をいただきました皆様方のご芳名と金額は、令和3年11月発行予定の単行本「マンガ SEKISUI'S Brain（赤水の頭脳）」・「マンガ 道、知るべ～続・長久保赤水の一生」などに掲載して、マンガ単行本2冊をお送り致します。さらに、長久保赤水顕彰会にご加入いただけます方は、3,000円と記載された用紙で、年会費をお振り込みください。振込先 郵便振替 口座記号 00380-6 口座番号 9573 長久保赤水顕彰会です。詳しくは、長久保赤水顕彰会事務局（090-1846-6849）まで、お問い合わせください。よろしく申し上げます。

# 赤水コーナー続々



北茨城市立図書館の長久保赤水特設コーナー＝同市磯原町本町

## 県内図書館、重文指定受け

日本で初めて経緯線のある全国地図を完成させた高萩市出身の学者、長久保赤水（1717～1801年）の関係資料が国の重要文化財に指定されたことに伴い、県内各市の図書館に特設コーナー設置が相次いでいる。置かれていたのは伝記や小説、漫画、絵本など。本具出身の偉人、赤水を知るきっかけとして、幅広い世代が活用できる内容がそろっている。

高萩市民らでつくる長久保赤水顕彰会（佐川春久会長）が、各市の図書館に書架スペースを確保し、特設コーナーを設置を提案し、動きが広がった。同会は今年、インターネットで資金を募るクラウドファンディングに取り組み、寄付金の使い道として公共施設への書籍寄贈を設定していた。現在は地元高萩市のほか、北茨城市の図書館に特設コーナーが設けられている。水戸、日立両市の図書館でも、今後作られる予定という。

このうち北茨城市立図書館では、研究者による書籍をはじめ、絵本、書簡集、漫画など、同会が寄贈した18種類の資料のほか、牛久市ゆかりの作家・住井素糸さんによる著作もある。壁には赤水が作成した「改正日本輿地路程全図」（赤水図）のレプリカを貼っている。

長久保赤水（ながくぼ・せきすい）江戸中期の地理学者、漢学者。1717年、現在の高萩市赤浜の農家に生まれる。11歳までに両親をなくし、継母に育てられた。35歳ごろから地図に興味を示し、日本各地を旅して地理を学んだ。77年に水戸藩6代

藩主、徳川治保の侍講に登用され、江戸小石川の水戸藩邸で97年まで暮らし、1801年、85歳で没した。1779年に刊行した「改正日本輿地路程全図」は、国防上の機密扱いだった伊能忠敬の地図と違っただけで、海賊版も出版される人気だった。

## マンホールに赤水図

長久保赤水の関係資料が国の重要文化財に指定されたことを記念し、日立・高萩広域下水道組合は、赤水が作成した地図をデザインしたマンホールのふたを高萩市内5カ所に設置した。

ふたには「改正日本輿地路程全図」（赤水図）が描かれ、「国の重要文化財指定」と記載。QRコードをスマートフォンなどで読み取ると、市ホームページにつながり、赤水の生涯や功績に関する情報を閲覧することができる。

ふたは、同市役所交差点▽JR高萩駅東口の国道交差点▽市立松岡小学校前▽穂積家住宅前▽市民球場前―のそれぞれの歩道に設置している。



長久保赤水が作成した地図がデザインされたマンホールのふた＝高萩市役所前

同館の担当者によると、利用者の反応は良く、貸し出し状況も上々という。赤水顕彰会の三浦邦明理事は「封建制から自由主義へと向かう歴史の流れや、日本全体を見ていた赤水について知ってもらえれば」と話している。（小原瑛平）

～地図は何を語る～  
長久保赤水が可視化した日本

日本地図学会-JAPAN  
長久保赤水顕彰会

G 空間 EXPO 2020 の「講演シンポジウム」における公開に向けて、現在、日本地図学会と長久保赤水顕彰会で編集作業を急いでいるところです。



# 赤水の功績ビデオに

## 顕彰会と日本地図学会 教育などで活用へ

日本で初めて経緯線を入れた日本地図(赤水図)を完成させた高萩市出身の地理学者・長久保赤水(1717~1801年)。その関係資料が国の重要文化財に指定されたのを受け、日本地図学会と「長久保赤水顕彰会」(佐川春久会長)は、資料を所蔵する高萩市歴史民俗資料館で、赤水の功績などを紹介するビデオ撮影を行った。24日から約1か月間、オンライン開催される博覧会「G空間エキスポ2020」で公開し、今後の地理教育でも活用していく。

撮影には、日本地図学会のト部勝彦常任委員長(日大経済学部教授)と太田弘企画委員会委員長、歴史地理学会会長の小野寺淳・茨城大教育学部教授が参加。赤水図の特徴や意義、地図作製の経緯のほか、学校教育での赤水図の活用方法などについて解説した。

G空間エキスポは、電子地図や全地球測位システム(GPS)による位置情報などを活用した技術やサービスが一堂に集まるイベント。今年は新型コロナウイルスの影響でオンライン開催となる。

赤水は、伊能忠敬の日本地図(伊能図)ができる42年前の1779年に「改正



赤水図を見ながらビデオ撮影の打ち合わせをするト部委員長(中央)ら(9日、高萩市で)

日本興地路程全図」を完成させた。地名などの地理情報が豊富に書き込まれた赤水図は出版・販売され、江戸後期に広く普及した。赤水の子孫宅に伝わる地図や絵図など693点が9月30日付で正式に重文に指定された。

ト部委員長は「重要文化財という国の宝になった以上、積極的に向き合うべきだ。現代の地図帳と比較しながら赤水図に書かれた様子をじっくり見て感じ取ってほしい」と話した。

高萩市歴史民俗資料館では、重文指定を記念した特別展が15日まで開催されている。



# 赤水資料寄贈で感謝状

## 重文指定 高萩市顕彰会・子孫らに

高萩市出身の江戸時代の地理学者、長久保赤水(1717~1801年)の関係資料693点が国の重要文化財に指定されたのを記念して、高萩市は13日、地図や肖像画など貴重な資料を市に寄贈した子孫ら6人と「長久保赤水顕彰会」(佐川春久会長)に感謝状を贈った。

市役所で贈呈式が開かれ、大部勝規市長は一人ひとりに感謝状を手渡した後、「指定を機に赤水に関する研究はますます進むと考えている。市は適切な管理に努め、修復やデジタル化を進めるとともに研究者への情報提供をしていきたい」と述べた。

感謝状を贈られた長久保和良さん(前列右端)ら(13日、高萩市役所で)

### 感謝状贈呈式



子孫らを代表して長久保和良さん(89)は「かつてはなかなか評価を得られなかったが、先輩たちの努力によって少しずつ世間に認められるようになった。世界

に冠たる長久保赤水として、さらなる研究推進をお願いしたい」とあいさつした。

赤水図マンホール 高萩市内5か所に 長久保赤水の関係資料が国の重要文化財に指定されたのを記念して、日立・高萩広域下水道組合は、赤水編集の日本地図をデザインしたマンホール蓋を高萩市内5か所に設置した。



赤水図をデザインしたマンホール蓋

伊能忠敬作製の日本地図より42年前の1779年に赤水が完成させた経緯線入りの「改正日本興地路程全図」(赤水図)をカラーであしらった。市役所前や県指定文化財「穂積家住宅」前の歩道などに設置した。





# 赤水さんの地図 重文指定を報告

関係者ら墓前に

江戸時代に近代的な日本地図を編集した長久保赤水の303回目の誕生日になる6日、赤水の関係者らが高萩市赤浜の墓を訪れ、赤水が製作した日本地図（通称赤水図）などが国の重要文化財に指定されたことを報告した。

重文には関係資料693

点が9月30日に正式に指定された。出身地の同市では赤水図を施したマンホールふたの設置や、赤水を中心にした高萩市の観光PR映像の作成、日本地図学会への参加など指定を契機に様々な動きが出ている。

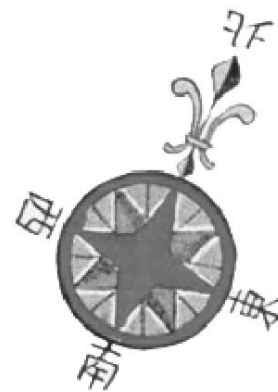


長久保赤水の墓前に国の重要文化財指定を報告する関係者ら。高萩市赤浜

この日は、長久保和良さん(89)や赤水頭彰会(佐川春久会長)の関係者らがこうした現状を報告し、赤水の好物とされる菊の花の酢の物や菓子をお供えた。佐川会長は「この機会にぜひ全国の人たちに、長久保赤水

の業績や資料群を知ってほしい。教科書に載せてもらって、全国に広がるように取り組んでいきたい」と話した。

(小松重則)



## 赤水の関係資料 寄贈者に感謝状

高萩市

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水(1717~1801年)の関係資料を同市に寄贈し、国重要文化財への指定に貢献したとして、市は13日、資料を寄贈した個人と団体に



感謝状を受け取った寄贈者と市関係者。高萩市役所

感謝状を贈った。

資料を寄贈したのは長久保家の子孫などの個人や長久保赤水頭彰会で、寄贈数は計625点。このうち693点が9月、重文に指定された。

贈呈式が同日、市役所で開かれ、大部勝規市長は「貴重な資料を大切に保存し受け継いでこられたことに感謝申し上げる。適切な管理とさらなる活用、顕彰を図っていききたい」と述べた。出席者を代表し、直系の子孫の養子である長久保和良さん(89)は「世界に冠たる長久保赤水となるまで、まだ残されている資料があれば研究の推進を促していきたい」とあいさつした。

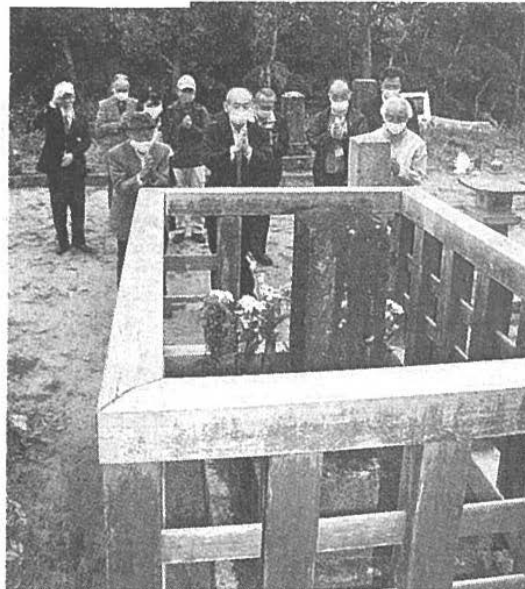


▲日本で初めて経緯線のある全国地図を作成した高萩市出身の学者、長久保赤水(1717~1801年)の生誕から303年となる

6日、赤水頭彰会の会員ら10人が、同市赤浜にある赤水の墓をお参りした。「赤水図」の関係資料が9月、国の重要文化財に指定されたことを報告し、手を合わせた。写真。

▲赤水は膨大な資料を基に「改正日本輿地路程全図(赤水図)」を作成し、江戸時代の人々に広く使われた。業績を広く知ってもらうため、市による顕彰事業や日本地図学会と連携した取り組みが進められている。

▲墓前で会員らは、赤水が「目に良い」と好んで食べたという菊の花の酢漬けなどを供え、線香を手向けた。頭彰会の佐川春久会長は「新型コロナウイルスの影響で会員みんなどで集まることができていなかった。一緒に報告できてよかった」と話した。



長久保赤水の墓前に国の重要文化財指定を報告する関係者ら。高萩市赤浜

## 子孫ら墓前に報告

長久保赤水資料 国重文に



長久保赤水の墓前で手を合わせる長久保和良さん(手前左)、佐川春久さん(同中央)ら。高萩市赤浜で

江戸時代の地理学者、長久保赤水(1717~1801年)の

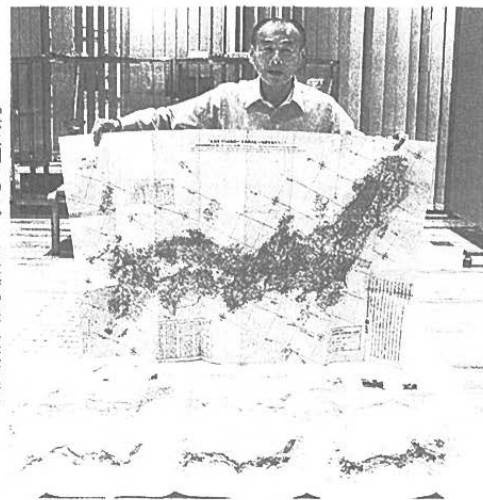
子孫らが6日、高萩市赤浜にある墓前に参り、赤水の関係資料が9月に国の重要文化財(重文)に指定されたことを報告した。同日は、赤水の303

たこと知られる。墓参したのは、赤水から数えて8代目に当たる長久保和良さん(89)ら子孫と、功績を伝える活動を続けている「長久保赤水頭彰会」のメンバー。頭彰会の佐川春久会長(71)は、市内5カ所に「赤水図」を設置したマンホールが設置され、また重文の指定後に顕彰会会員が急増していることなど近況を墓前に報告。赤水図の原寸大レプリカなどを供え、皆で合掌した。

【田内隆弘】



# 「赤水」の知名度アップを



「赤水図」のレプリカを持つ長久保赤水頭彰会の佐川春久会長。いずれも高萩市で

高萩市出身で、江戸時代に精密な日本地図を作った地理学者・長久保赤水（一七七一―一八〇一年）の関連資料が九月、国の重要文化財（重文）に指定されたのを追い風に、市内の団体が、業績紹介の漫画本作りなど知名度アップに本格始動した。赤水は、実測で日本初の日本地図を作った伊能忠敬より四十二年も早く完成させ、日本地図の先駆者とも言えるが、あまり知られていない背景がある。

「長年の悲願がかなった」とはいえ、日本地図で知られているのは、伊能忠敬（一七四五―一八一八年）を続けている団体「長久保赤水頭彰会」の佐川春久会長（七十九歳）は、関連資料の重文指定を喜び、指定された資料は地図や絵図のほか、文書など六百九十三点。江戸時代中後期の文化史、地図史の研究に当たり、学術的な価値が高

「長年の悲願がかなった」とはいえ、日本地図で知られているのは、伊能忠敬（一七四五―一八一八年）を続けている団体「長久保赤水頭彰会」の佐川春久会長（七十九歳）は、関連資料の重文指定を喜び、指定された資料は地図や絵図のほか、文書など六百九十三点。江戸時代中後期の文化史、地図史の研究に当たり、学術的な価値が高

高萩市出身で、江戸時代に精密な日本地図を作った地理学者・長久保赤水（一七七一―一八〇一年）の関連資料が九月、国の重要文化財（重文）に指定されたのを追い風に、市内の団体が、業績紹介の漫画本作りなど知名度アップに本格始動した。赤水は、実測で日本初の日本地図を作った伊能忠敬より四十二年も早く完成させ、日本地図の先駆者とも言えるが、あまり知られていない背景がある。

「長年の悲願がかなった」とはいえ、日本地図で知られているのは、伊能忠敬（一七四五―一八一八年）を続けている団体「長久保赤水頭彰会」の佐川春久会長（七十九歳）は、関連資料の重文指定を喜び、指定された資料は地図や絵図のほか、文書など六百九十三点。江戸時代中後期の文化史、地図史の研究に当たり、学術的な価値が高

## 精密日本地図 伊能忠敬の42年前

高萩市出身で、江戸時代に精密な日本地図を作った地理学者・長久保赤水（一七七一―一八〇一年）の関連資料が九月、国の重要文化財（重文）に指定されたのを追い風に、市内の団体が、業績紹介の漫画本作りなど知名度アップに本格始動した。赤水は、実測で日本初の日本地図を作った伊能忠敬より四十二年も早く完成させ、日本地図の先駆者とも言えるが、あまり知られていない背景がある。

「長年の悲願がかなった」とはいえ、日本地図で知られているのは、伊能忠敬（一七四五―一八一八年）を続けている団体「長久保赤水頭彰会」の佐川春久会長（七十九歳）は、関連資料の重文指定を喜び、指定された資料は地図や絵図のほか、文書など六百九十三点。江戸時代中後期の文化史、地図史の研究に当たり、学術的な価値が高



JR常磐線高萩駅前長久保赤水の像

## 高萩の顕彰会 漫画本作りなどで本格始動

高萩市出身で、江戸時代に精密な日本地図を作った地理学者・長久保赤水（一七七一―一八〇一年）の関連資料が九月、国の重要文化財（重文）に指定されたのを追い風に、市内の団体が、業績紹介の漫画本作りなど知名度アップに本格始動した。赤水は、実測で日本初の日本地図を作った伊能忠敬より四十二年も早く完成させ、日本地図の先駆者とも言えるが、あまり知られていない背景がある。

「長年の悲願がかなった」とはいえ、日本地図で知られているのは、伊能忠敬（一七四五―一八一八年）を続けている団体「長久保赤水頭彰会」の佐川春久会長（七十九歳）は、関連資料の重文指定を喜び、指定された資料は地図や絵図のほか、文書など六百九十三点。江戸時代中後期の文化史、地図史の研究に当たり、学術的な価値が高



高萩市出身で、江戸時代に精密な日本地図を作った地理学者・長久保赤水（一七七一―一八〇一年）の関連資料が九月、国の重要文化財（重文）に指定されたのを追い風に、市内の団体が、業績紹介の漫画本作りなど知名度アップに本格始動した。赤水は、実測で日本初の日本地図を作った伊能忠敬より四十二年も早く完成させ、日本地図の先駆者とも言えるが、あまり知られていない背景がある。

「長年の悲願がかなった」とはいえ、日本地図で知られているのは、伊能忠敬（一七四五―一八一八年）を続けている団体「長久保赤水頭彰会」の佐川春久会長（七十九歳）は、関連資料の重文指定を喜び、指定された資料は地図や絵図のほか、文書など六百九十三点。江戸時代中後期の文化史、地図史の研究に当たり、学術的な価値が高

# 東京新聞

中日新聞東京本社  
東京都千代田区内幸町二丁目1番4号  
〒100-8505 電話 03(6910)2211

## 精密日本地図 伊能忠敬の42年前

### 江戸庶民の旅 支えた「赤水図」



JR常磐線高萩駅前長久保赤水の像



江戸時代に精密な日本地図を作った地理学者・長久保赤水（一七七一―一八〇一年）を、存じだそうか。実測で日本初の日本地図を作った伊能忠敬（一七四五―一八一八年）より四十二年も早く完成させた。日本地図の先駆者だが、あまり知られていない。関連資料が九月、国の重要文化財（重文）に指定されたのを追い風に、出身地の茨城県高萩市の団体が業績紹介の漫画本作りなど、知名度アップのために本格始動した。

（水谷エリナ、写真も）

「長年の悲願がかなった」とはいえ、日本地図で知られているのは、伊能忠敬（一七四五―一八一八年）を続けている団体「長久保赤水頭彰会」の佐川春久会長（七十九歳）は、関連資料の重文指定を喜び、指定された資料は地図や絵図のほか、文書など六百九十三点。江戸時代中後期の文化史、地図史の研究に当たり、学術的な価値が高

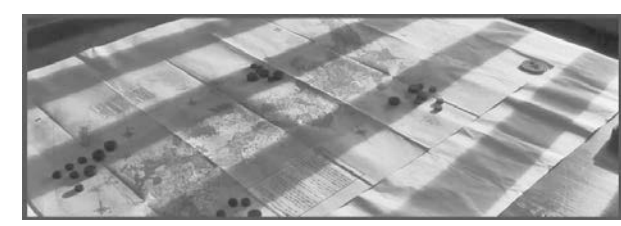
## 作者出身地 茨城・高萩 知名度アップに力

茨城大の小野寺淳教授（歴史地理学）は「赤水図の重要な点は、伊能忠敬よりも前に経線、緯線の中に日本列島を位置付けて地名や河川の名前を詳しく入れたこと。欧米に与えた影響も大きい」と解説する。

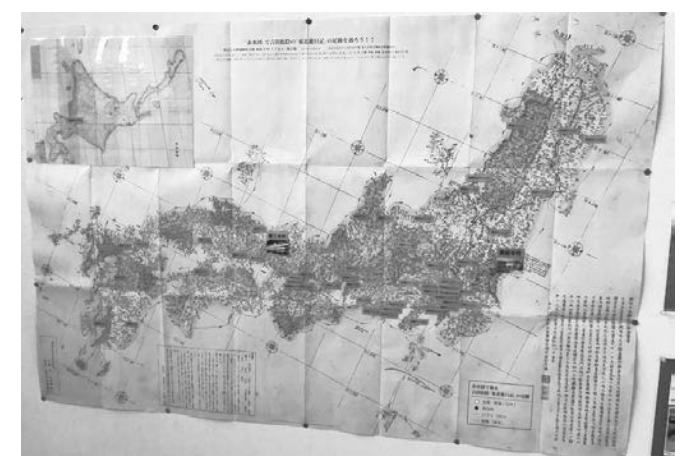
赤水の知名度が低い理由を、小野寺教授は「忠敬も五十年前は知られていなかったが、小説などに取り上げられて有名になった」と露出の少なさを挙げる。

「こうしたことから、顕彰会は一般の人が赤水の名に触れる機会を増やそうと取り組んできた。近年では赤水の一生を漫画にしたほか、書籍をまとめた本などを出版。今年には、赤水が地図に記した不思議な海上現象を元にした絵本「りゅうのひかり」や、実寸大の赤水図第二版のレプリカ（縦約八十五センチ、横約百二十九センチ）も作った。佐川会長は「もっと知りたい、研究する人がどんどん出てきて論文を出してほしい」と語る。

子どもにも知ってもらうため、会員二人が漫画の単行本を二冊ずつ作り、来年十一月に出版予定だ。一冊は、赤水の一生の経緯で、もう一冊は「マンガ SEKISUI'S Brain」（赤水の頭脳）と題し、赤水の地図作りに焦点を当てるといふ。ほかにも、教科書への赤水の業績記載や、大河ドラマ化、記念館の開館を目指す活動にも力を入れる。



赤水図レプリカを購入した方から「お尋ねの天外者」予告MVで、「赤水図」が使用されているとの情報がたくさん寄せられています。



第一学院高萩高等学校（赤浜）では、赤水図レプリカに全国48か所にある同校キャンパス名のラベルを貼り展示している。



# 赤水資料、重文に指定

## 官報告示 一橋徳川家資料も



長久保赤水の関係資料の重要文化財指定を祝い、高萩市庁舎外壁に掲示された懸垂幕

高萩市出身の学者で、日本で初めて経緯線のある全国地図を完成させた長久保赤水（1717～1801年）の関係資料（高萩市、同市歴史民俗資料館保管）が30日、国の重要文化財に指定された。同日付の官報告示で正式に決定する。

高萩市出身の学者で、日本で初めて経緯線のある全国地図を完成させた長久保赤水（1717～1801年）の関係資料（高萩市、同市歴史民俗資料館保管）が30日、国の重要文化財に指定された。同日付の官報告示で正式に決定する。

重要文化財に指定されたのは地図・絵図84点、文書279点、典拠274点、書画・器物56点の計693点。国の文化審議会が3月に指定を答申。指定は当初、夏ごろの見通しだったが、新型コロナウイルスの影響で遅れていた。

同市の大部勝規市長は「指定により、赤水資料は国民的財産として位置付けられた。引き続き資料の保存、活用を図り、長久保赤水の名とその功績を全国に発信してまいりたい」とのコメントを発表した。

資料の収集・整理や赤水の功績を伝える活動を長年続けてきた、長久保赤水顕彰会の佐川春久会長は「会の先輩たちから活動を継承してきた。ようやく指定が実現し、感激している。これを機会に活動に弾みをつけていきたい」と喜んだ。

市は同日までに、市庁舎外壁に指定を祝う懸垂幕を掲げた。同資料館では重要文化財指定を記念した特別展を8月から開催しており、1日には資料の一部を入れ替えて展示する。

本県関係ではほかに「一橋徳川家関係資料」（県、県立歴史館保管）も30日付で国の重要文化財に指定された。（小原瑛平）

# 赤水さん資料 きょう重文に

## 一橋徳川家の文書なども

3月に国の文化審議会が文部科学省に答申した「長久保赤水関係資料」（高萩市歴史民俗資料館保管）と、「一橋徳川家関係資料」（県立歴史館保管）が国の重要文化財に指定される。30日、文科省の官報告示で正式に決定する。

高萩市出身の長久保赤水（1717～1801）は江戸中期の儒学者・地理学者で、日本で初めて経緯と緯線を記した日本地図「改正日本輿地路程全図」（赤水図）を出版した。指定される資料群は赤水の複数の

子孫宅に伝来した地図や文書、典籍など計693点で、赤水の学問の内容や交友関係、生涯の功績を考える上で最もまとまったもので、江戸時代中後期の文化史、地図史の研究においての学術的価値が評価された。

一橋徳川家は田安・清水両徳川家とともに「御三卿」と称された名家で、11代将軍家斉、15代慶喜を輩出した。資料群は一橋徳川

家から県に寄贈されたもので、文書や書画など計4715点。同家の家格、家政、幕政への関与や、内外における儀礼の実態をうかがうことができ、江戸時代の政治史、文化史、古文書学を研究する上で価値が高いとされた。

（林将生）

# 赤水図デザインマンホール

改正日本輿地路程全図（通称：赤水図）がプリントされたマンホールを市内各所に設置しました。

- (1) 松岡小学校正門前
- (2) 穂積家住宅前
- (3) 高萩市民球場北側
- (4) 高萩市役所前交差点
- (5) JR高萩駅東口国道6号交差点



松岡小学校前歩道



マンホールデザイン

# デスク日誌

江戸時代に高萩市出身の学者、長久保赤水が完成させた日本地図。幕末の思想家、吉田松陰も持ち歩いたという。その値段が25両だったと先月、「県民の声」に投稿があった▼江戸の貨幣価値は一概に1両いくらと言えず、時代によって違ったようだ。米価で換算すると、江戸初期は1両＝約10万円、中、後期4万～6万円、幕末約4千～1万円だった（日本銀行貨

## 赤水図、幕末の価値は？

幣博物館「お金の歴史」より）▼長久保赤水顕彰会の佐川春久会長に聞くと、フルカラー8色刷りが25両。幕末なら約25万円か？「模倣版や海賊版が出てきて、松陰のころは380文ぐらい」▼1両＝1万円として約950円。ネットに流れると情報もタダになってしまふ現代との類似性と悲哀を感じた。赤水図は9月末、晴れて国重要文化財に指定された。同市歴史民俗資料館で現在、特別展が開かれている。（報道部・黒崎哲夫）

(2020.10.10)

# 県民の声

## 赤水の日本地図 眺めたら新発見

▲茨城が輩出した儒学者、長久保赤水が作った日本地図。伊能忠敬より42年も早く世に出てたものがあった。日の目を見て、国の重要文化財に指定される。昨年、生誕300年を祝った特別展で原寸大レプリカを求めたので、暇に飽かして広げている。

▲すると、展示場では気が付かなかったことがいろいろと見えてきた。例えば、今から230年前は利根川の文字がなく「坂東太郎」と称し、その本流は東京湾へと南下していた。私が住んでいる地名はすっかりと「川尻」と載っていた。半面、日立の文字は見当たらず、それらしき位置に「介川」の表示。そういえば、かつて助川村が存在したことを市史で見た。

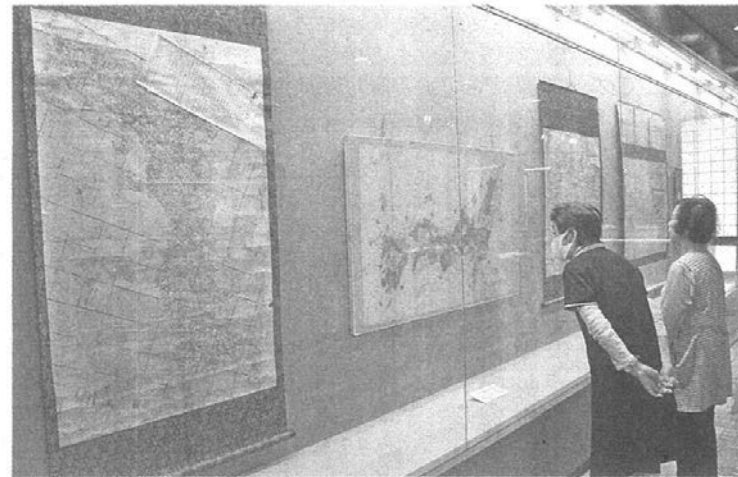
▲かのシーボルトも持ち帰ったというこの地図、当時1枚25両というから現在なら25万円ぐらいか。庶民の手にはなかなか届かなかったであろう。

（日立市 無職 松本努 82歳） (2020.9.16)

# 赤水の偉業、再認識を

高萩市出身の学者で、日本で初めて経緯線のある全国地図を作成させた長久保赤水（1717～1801年）の関係資料が国の重要文化財に指定されることを記念した特別展が、同市高萩の市歴史民俗資料館で開かれている。地図類のほか書物や絵画など約50点を展示し、郷土の先人である赤水の足跡をたどることが出来る。

## 高萩市歴史民俗資料館



長久保赤水の足跡をたどる特別展。手前は赤水図の原因となった「改正日本分里図」＝高萩市高萩

展示資料のうち、1768年の「改正日本分里図」は、赤水が作った日本地図「改正日本輿地路程全図（赤水図）」の原図の一つ。地形や地名に、白色の顔料である胡粉による多くの修正痕があり、赤水がより正確な地図を作成しようとしたことが見て取れる。

「改正日本輿地路程全図（赤水図）」の原図の一つ。地形や地名に、白色の顔料である胡粉による多くの修正痕があり、赤水がより正確な地図を作成しようとしたことが見て取れる。

## 重文記念展 地図類や書物、絵画も

重文記念展 地図類や書物、絵画も。北茨城市の山あいの地形や道路を描いた地図には、「花園」など現在も残る地名がある。このほか家族や知人に宛てた手紙、治保公からの贈り物などを見ることもできる。

市生涯学習課の担当者は「重文を機に、高萩にこんなに素晴らしい人物がいたと広く知ってもらいたい」と、郷土の先人の偉業を地元の人にも再認識してもらえれば」と話している。

特別展は11月15日まで。月曜休館。9月23～30日は展示物の入れ替えのため臨時休館する。開館は10月31日までが午前9時半～午後5時50分、11月1～15日は午前9時半～午後5時。重要文化財に指定されるのは、赤水の複数の子孫宅に伝来した一括資料で、地図・絵図84点、文書・記録279点、典籍274点、書画・器物56点の計693点。赤水の学問の内容、交友関係、生涯の実績を考える上で最もまとまった資料群で、江戸時代中期の文化史、地図史などの研究上に学術的な価値が高いと評価された。（小原瑛平）

## 重文指定記念 高萩で展示

江戸時代の儒学者で「日本地図の先駆者」、長久保赤水（1717～1801）の特別展が、高萩市高萩の市歴史民俗資料館で開催されている。地図や書物、絵画類約50点が展示されている。入場無料で、11月15日まで。

赤水の関係資料693点が3月、国の文化審議会の答申で「重要文化財指定が適当」とされ、間もなく正式に指定される見通しのため、重要文化財指定記念として開催されている。

高萩市赤浜の農家に生まれた赤水は晩年、水戸徳川家6代藩主治保の侍講となり、地理学、天文学、農政学など多岐にわたる分野で成果を残した。代表作「改正日本輿地路程全図」（赤水

図）は、伊能忠敬が実測して作製した日本地図「大日本沿海輿地全図」より42年前に完成された。

今回、赤水図の初版と第2版を展示。初版の約10年後に刊行された第2版は、国内各地の地名や河川が大幅に増え、航路なども細かく記されている。長久保赤水顕彰会の三浦邦明理事は「第2版は情報量が全然違う。米などを運ぶための海運、物流の関係でも使われていたようだ」と話す。

自画像や書簡、家訓、年貢取り立てに関する上呈の文書など公私にわたる資料も並ぶ。市生涯学習課の田中達仁主幹は「生き方や人間性にも触れ、地図以外の功績も紹介している。多くの人に知ってほしい」と話している。（小松重則）

## 赤水さんの生涯に触れよう



会場には、赤水図第2版を3倍に拡大して印刷した地図が展示してある＝高萩市高萩

令和2年8月30日 茨城新聞

PR映像や地図複製 赤水の業績顕彰事業 高萩市、国重文指定受け

高萩市出身の学者で、日本で初めて経緯線のある全国地図を作成させた長久保赤水（1717～1801年）の関係資料が国の重要文化財に指定されることに伴い、同市は顕彰事業に着手する。

赤水の業績と合わせて、市の観光地や特産品をPRする映像コンテンツと、地図のレプリカを作成。新型コロナウイルス感染症収束後の観光振興や交流人口拡大を図る狙いだ。市は、顕彰事業の経費1833万円を含む本年度補正予算案を9月の市議会定例会に提出する。

令和2年10月31日 茨城新聞

## 本県「長久保赤水顕彰会」

### 地域再生大賞 候補出そろう

地域づくりを担う団体を応援しようと、地方新聞46紙と共同通信が設けた「第11回地域再生大賞」の第1次選考を通過した50団体が30日、出そろった。地元を根ざした活動を継続・展開している団体に加え、新型コロナウイルス感染症拡大への取り組みもあり、多彩な顔触れだ。選考委員会の審査を経て、来年1月に大賞など各賞を発表する。

本県からは、高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水の功績を伝える「長久保赤水顕彰会」が選ばれた。

第1次選考は各紙と共同通信が実施。NPO法人や市民団体、地域貢献に取り組む企業などを対象に、各都道府県から1～2団体を選出した。

これから50団体の活動を専門家による選考委員会が審査。大賞（副賞100万円）、準大賞（同30万円）のほか、ブロック賞（同10万円）などを贈る。表彰式は来年2月、東京で開催する。

地域再生大賞は2010年度に創設。20年度は「コロナ禍を越えて」という副題を設け、コロナへの対応については過去の受賞団体も推薦できるようにした。また今回から表彰対象に個々の団体だけでなく、広域連携などのプロジェクトを含めるなど要件を緩和した。

令和2年9月3日 よみうりタウンニュース

## 高萩市歴史民俗資料館 長久保赤水特別展

高萩市出身で江戸時代の地理学者の長久保赤水（1717～1801年）の関連資料を展示する「長久保赤水特別展」が、同市高萩の市歴史民俗資料館で開かれている。11月15日まで。赤水の関連資料が今年3月、国



重要文化財に指定されたことを記念したもの。展示は、地図や書物などの貴重な資料50点。重要文化財に指定されたのは、地図、絵図類84点、文書、記録類279点ほか計693点。赤水は、初めて実測で日本地図を作った伊能忠敬（1745～1818年）より42年早く、情報収集による精度の高い「赤水図」を作った。午前9時半～午後5時50分（土、日曜、祝日は同5時まで）。月曜休館（祝日の場合は、翌日休館）。同市生涯学習課 ☎0293・23・1132。

令和2年11月10日 茨城新聞

## 記者手帳

「世間から大学は敷居が高いと言われる。われわれの本来の願いは閉じるのではなく広げていくことだ」。茨城大の太田寛行学長は強調する。同日立キヤンパスの正門周辺整備で扉を取り払った。

正門近くには同大の大学院生がデザインしたバス待合所兼休憩所も完成し、「学んだ力を社会の中で発揮する機会を、幸福なことだ」。この場所が地域と大学をつなぐ接点になると期待を寄せ、地域とともにある大学とアピールする。

○「行方市立北浦中で行われた「楽器寄付会」で納税」の楽器贈呈式。同市出身の小説家で中学時代に吹奏楽部だった額賀澤さんも出席し、「これだけの楽器が後輩たちに渡ることをうれしく思う」とあいさつした。

○「世間から大学は敷居が高いとだまし使っていた」という。「元の所有者が」大事な楽器を手放す決断をしてくれたということなので、大切に使うだけでなく、感謝の気持ちをしっかりと伝えてほしい」と呼び掛けた。

○「これから来年3月までの間、いろいろな事業がめじろ押し。会員も急増している」と笑顔で話すのは、長久保赤水顕彰会の佐川春久会長。赤水の誕生日である6日、会員らと懇談し、線香を上げた。

高萩市による顕彰事業が進められているほか、日本地図学会と連携した取り組みが複数予定される。関係資料の重要文化財への指定をきっかけとした知名度アップに向け、「赤水の業績と資料群が全国に届けばいいと思う」と期待する。（瑛）



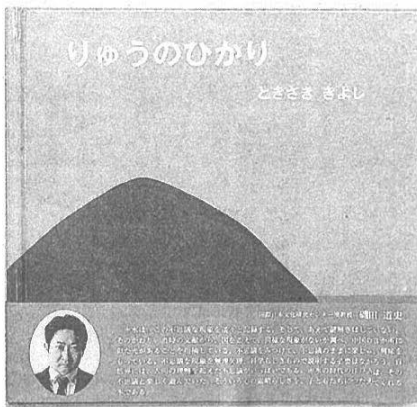
赤水図レプリカ



# 赤水図 絵本で知って

江戸時代の地理学者で高萩市出身の長久保赤水（1717～1801年）が記した福島県いわき市の発光現象「龍燈」を題材に、高萩市のときさき・きよし（ペンネーム）さん（69）が絵本「りゅうのひかり」を作った。発行した市民組織「長久保赤水顕彰会」は、子どもたちが赤水に興味を持つきっかけになることを願っている。

## 高萩の顕彰会が発行



歴史家の磯田さんも推薦する絵本「りゅうのひかり」

龍燈は、海から現れた数々の光が川を遡って山の麓に達し、林の中に入っていくとされる現象。赤水が手がけた日本地図「改正日本輿地路程全図」（赤水図）は、各地に伝わる不思議な現象も淡々と記しており、龍燈もその一つとして、赤水図の第2版にある。これを、顕彰会の会員で手作り絵本の制作が趣味の、ときさきさんが作品化した。

絵本では、静かな夜の海に光の粒が現れ、数を増して舞い、龍の姿になって山へ分け入っていく様子を水彩絵の具で表現した。ときさきさんは「人間は自然を征服できるものと思わず、もっと耳を澄まして向き合ってもよいのでは」と、赤水図に触発された思いを語り、「読み手の想像力にできるだけ任せたい。繰り返し読んでもらえたら」と話す。

絵本は、今年3月に国の文化審議会が地図や絵図・文書類など「長久保赤水関係資料」を国の重要文化財（美術工芸品）に指定するよう答申したことを記念し、顕彰会が発行した。茨城大准教授などを務めた歴史家磯田道史さんの寄稿も掲載され、人間の理解を超えた不思議を楽しんでいた江戸時代の人々の様子を紹介。「そういう心の素

晴らしさき、子どもたちにつたえてくれる本」と推薦している。

絵本はA4判変型、80ページ、税別1000円。問い合わせは、顕彰会（090・1846・6849）へ。

## 高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717～1801年）の関連書籍を扱う特設コーナーが、東京・日本橋の地図専門店「ぶよお堂」に設置されている＝写真。

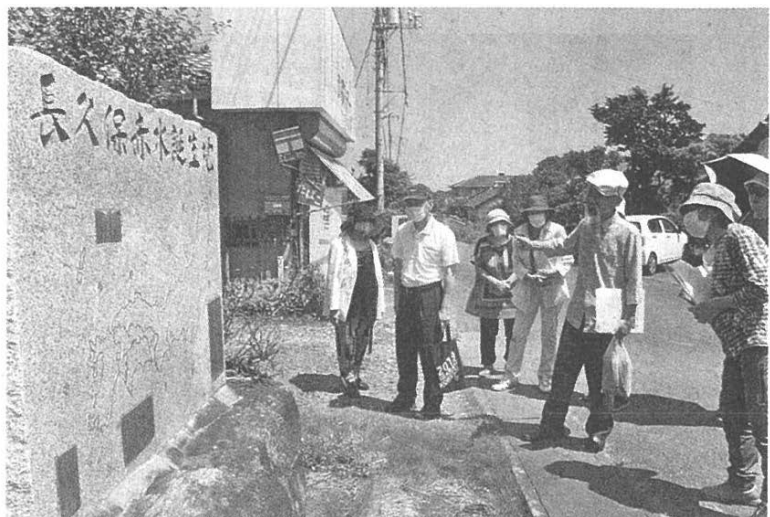


特設コーナーは、関連資料の国重要文化財指定が決まったのを受けて、1日から始まった。赤水が作った日本地図「改正日本輿地路程全図」（赤水図）の複製や、長久保赤水顕彰会が発行した関連書籍など約10冊、記念切手、CDなどが並んでいる。赤水は日本で初めて経緯線のある全国地図を完成させたことで知られる。同店の峰村和孝代表（49）は「赤水が、200年以上前にあれだけのすごいものを作ったということが、多くの人に知っていただきたい」と呼び掛けている。特設コーナーは当面の間、設置する予定だ。



# 赤水ゆかりの史跡巡る

## 高萩 市民の会「歴史感じた」



長久保赤水顕彰会顧問の長久保源蔵さん（右から3人目）の案内で誕生地の石碑を見学する「はまなす会」のメンバー＝高萩市赤浜

高萩市安良川地区の「コミュニティサロン」は「はまなす会」は4日、同市出身の学者で、日本で初めて経緯線のある全国地図「赤水図」を完成させた長久保赤水（1717～1801年）の関連史跡を巡る見学会を行った。会のメンバー13人

が参加し、赤水が育った場所やルーツについて理解を深めた。いずれも同市赤浜にある長久保家本家の墓地、赤水の誕生地石碑、墓、旧宅の順に見学した。長久保赤水顕彰会長の佐川春久さん（71）、同会顧問の長久保源

蔵さん（89）、墓守の長久保和良さん（89）が案内した。源蔵さんは「全国を歩いたわけではなく資料を基に地図を作ったが、かなり正確にできている」と赤水の功績を説明。佐川会長は墓前で案内で、赤水の関係資料が国の重要文化財に指定されるが決まったのを念頭に「拝んでいただき、国の文化財に登録されますと報告してもらえれば」と参加者に呼び掛けた。はまなす会は地域の高齢者が集まる場として活動。自分たちが住む地域の歴史を知ろうと勉強会を開き、総まとめとして現地見学を行った。また赤水は旧暦の8月31日が命日で、お盆前の墓参の意味も込めた。同会の和岡勝子会長（82）は「目で見て確かめて、歴史の息遣いを感じることができた」と話した。同市では11日から、赤水関係資料の重文指定決定を記念した特別展が、同市高萩の市歴史民俗資料館で開かれる。資料の一部を紹介する予定。（小原瑛平）



## 記者手帳

○…高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水の関連資料が国の重要文化財に指定されることが決まった。長久保赤水顕彰会の佐川春久会長は、「会員の力添えがあって実現できた。よつやく日の目を見る」と感謝した。ただ「赤水はまだまだビッグネームではない」と満足しない。赤水を学校

## 赤水の顕彰活発化へ

の教科書に掲載することや大河ドラマの実現を目指し、顕彰活動をさらに活発化させていく考え。「これまで来たからには赤水の業績をもっと広く知ってもらいたい」と願った。（瑛）

○…「素晴らしい話ばかり。イラストも入っており、非常に分かりやすい」。鹿嶋市の錦織孝一市長は、鹿嶋石油鹿島製油所から寄贈された創作童話の作品集「童話の花束」に目を通し、

絶賛した。作品集は1200冊寄贈され、市内の新1年生や幼稚園児などに配布されるほか、市内の各図書館にも収蔵される。「人が体験できることには限りがある。本を読むことで子どもたちが人間として必要なことを学んでくれれば」と期待した。（徹）

○…「子どもの心のケアをどうしたら良いか、手だてを考えていかなければいけない。これから非常に大切になってくる。このコロナウィルス禍を、新しい方法を見いだせる機会として捉えなければいけない」と桜川市の梅井隆男教育長。

約6年間務めた教育長を31日付で退任する。コロナウィルス感染症の国内拡大、小中学校の休校などを巡り、最後まで対応に奔走した。「教育現場を忘れることはできない。子どもたちをずっと応援していきたい」（一）



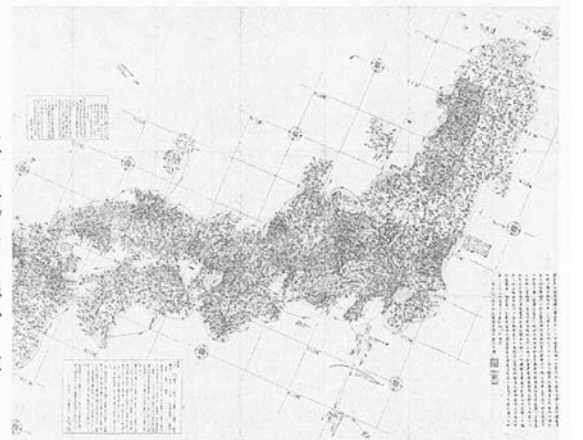








JR高萩駅前にある長久保赤水の像（茨城県高萩市）



長久保赤水の「改正日本輿地路程全図」（高萩市教育委員会提供）

# 長久保赤水 高まる評価

茨城県高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（ながくほ・せきすい、1717～1801年）が近年、知名度を上げていく。初めて実測で日本地図を作った伊能忠敬（いのう・ただたか、1745～1818年）より42年早く、情報収集による精度の高い「赤水図」を作り、庶民や後世の知識人に広めた功績が評価され始めた。

## 日本地図 伊能忠敬より40年早く

取り入れたことで、日本で初めて経線と緯線が書かれ、比較的正確なのが特徴。中でも1779年に初版が完成した「改正日本輿地路程全図」（通称・赤水図）は実用性が高く、江戸時代の庶民に広く流通した。幕末の志士を育んだ吉田松陰（1830～59年）が兄に宛てた手紙には「これが無くては不自由」と、赤水図を旅に役立てていたことが記されている。

## 高精度「世界に誇れる先人」

伊能忠敬の地図は、伊能自らが実際に各地を歩き歩幅で測量したことで有名。一方で赤水は自分で集めた地名などの情報を取り入れたことで、日本で初めて経線と緯線が書かれ、比較的正確なのが特徴。中でも1779年に初版が完成した「改正日本輿地路程全図」（通称・赤水図）は実用性が高く、江戸時代の庶民に広く流通した。幕末の志士を育んだ吉田松陰（1830～59年）が兄に宛てた手紙には「これが無くては不自由」と、赤水図を旅に役立てていたことが記されている。

### 赤水の手紙

（長男・藤八郎、次男・四郎次・作之允へ：）  
（前略） 稲を盗まれたり、綿を盗まれたりするなどは、施しと同じなので、必ず残念に思わずに、人に盗まれるように多く作っておくようにせよ。すべからず、善い心を起して家業を専一に勤めるようにせよ。貪欲にならないように心がけるようにせよ。これが第一の学問である。大根なども人に盗み引かれるものなので、その分余計に多く作って、人にも盗まれるようにせよ。（略） 早の引水などにも、とにかく根気強く怠慢なく出て守るべきではあろうが、その分前には人に負けるようにして、人と争うことないようにせよ。これが第一の心得である。君子の志というものでもある。その意のとおり行えば、書物を読まなくても学者の行いである。（略） 総じて身の上の事、勝手（勝手）の事は願ってはいけない。天命の（趣くまに）次第を待つようにし、自分には正直に家業（百姓）に精を出し、人の為めになるよう、人の邪魔にならぬようにと心かけるようにせよ。吾が一族は勿論、懇意の人にも教化するように。

## 郷土の誇り「赤水」 重文決定に寄せて上

佐川春久



3月19日、国の文化審議など関係資料693点について、「国の重要文化財指定が適当である」と、文部科学大臣に答申した。その具体的な内容を見てみると、「この資料群は、江戸中後期の文化史、



長久保赤水の子孫に当たる複数の家などに伝来した赤水手紙の一括資料である。地図・絵画類が84点、文書・記録類が279点、典籍類が274点、書画、器物類が56点から構成される。赤水の学問の内容、交友関係、生涯の事柄を考へて、最もまとまった資料群で、江戸中後期の文化史、



長久保赤水の肖像画

## 江戸庶民が見た日本地図

86（明和5）年に描かれた。子孫である長久保用氏が寄贈し、高萩市歴史民俗資料館が所蔵している。地形や地名には、胡粉による多くの修正痕や和紙を何枚も重ねて書き直した跡が残されており、赤水が考証しては、その都度修正し、「改製日本分里図」と改題して表記することにした。今回の国の重要文化財指定に向けた文化庁の調査が寄贈し、高萩市歴史民俗資料館が所蔵している。地形や地名には、胡粉による多くの修正痕や和紙を何枚も重ねて書き直した跡が残されており、赤水が考証しては、その都度修正し、「改製日本分里図」と改題して表記することにした。

## 郷土の誇り「赤水」 重文決定に寄せて下

佐川春久



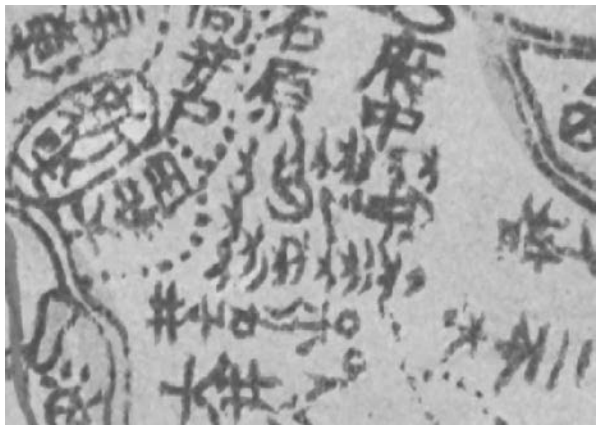
長久保赤水が手書きで製した「改製日本分里図」は、赤水の代表作「改正日本輿地路程全図」（通称・赤水図）を改題して「改製日本分里図」と改題して表記することにした。今回の国の重要文化財指定に向けた文化庁の調査が寄贈し、高萩市歴史民俗資料館が所蔵している。地形や地名には、胡粉による多くの修正痕や和紙を何枚も重ねて書き直した跡が残されており、赤水が考証しては、その都度修正し、「改製日本分里図」と改題して表記することにした。



長久保赤水の子孫に当たる複数の家などに伝来した赤水手紙の一括資料である。地図・絵画類が84点、文書・記録類が279点、典籍類が274点、書画、器物類が56点から構成される。赤水の学問の内容、交友関係、生涯の事柄を考へて、最もまとまった資料群で、江戸中後期の文化史、

## 世界に1枚の手書き地図

製した。まさに、汗と英知の結晶である。国民の財産となることが決まった今、まさに、世界に1枚しかない手書きのこの地図は、必見の価値があるだろう。大きさは、縦0・846メートル、横1・348メートル。1779年（明和14）年に描かれた。子孫である長久保用氏（現・高萩市赤浜）で20年以上の歳月を費やし、「改製日本分里図」と改題して表記することにした。今回の国の重要文化財指定に向けた文化庁の調査が寄贈し、高萩市歴史民俗資料館が所蔵している。地形や地名には、胡粉による多くの修正痕や和紙を何枚も重ねて書き直した跡が残されており、赤水が考証しては、その都度修正し、「改製日本分里図」と改題して表記することにした。



武蔵野の雑木林が描かれている。（赤水図第2版、寛政3年・1791）



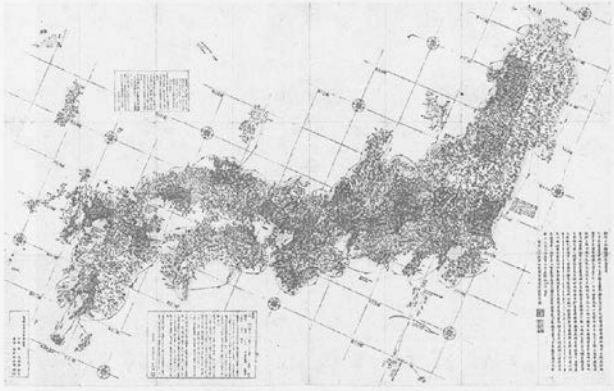
花貫溪谷



R2.5月13日 産経新聞

# 竹島明記 赤水図 広めたい

## 江戸時代のベストセラー



江戸時代の地理学者、長久保赤水（1711～1801年）が手掛けた日本地図「改正日本輿地路程全図」（1779年初版、通称・赤水図）の復刻版が制作されることになった。赤水図には、現在の竹島、島根県隠岐の島などが描かれ、江戸時代に日本が竹島の領有権を確立していたことを示す証拠の一つとされている。復刻版で赤水の功績を広く伝えようと、長久保赤水顕彰会茨城県高萩市はインターネットで資金を募るクラウドファンディング（CF）に取り組んでいる。（坂田弘幸）

## 復刻版制作へ資金募る

幕府が発行許可  
赤水は、当時の地誌や伝聞などをもとに江戸時代後期の安永8（1779）年、経緯線が入った初めての



長久保赤水の肖像画

の日本地図である赤水図を完成させた。日本初の実測地図で知られる伊能忠敬の「伊能図」よりも42年早く、赤水図には、隠岐諸島の北西に「松島」（現在の竹島）と「竹島」（現在の隠岐島）が表記されている。幕末まで版を重ねて一般に普及しており、当時の日本で竹島が広く認知されていたことを示す証拠の一つとなっている。

調査済み注目  
赤水は常陸国、現在の茨城県高萩市の農家の出身。幼くして両親や弟をなくし、水戸藩6代藩主・徳川治済の学問を講義する侍講に任用された。江戸幕府が伊能図を国家機密として非公認としたのに対し、赤水図は庶民に広く使われた「ベストセラー」で、複製版も出回った。幕末の思想家、吉田松陰が赤水図を手に全国を旅したとの記録も残る。しかし、既存の地図や自身の経験をもとに作り上げた編纂図だったため、沿岸部のほとんど全てを測量した実測図の伊能図に比べて精度が劣るとされ、赤水自身の知名度も低かった。だが、赤水の関係資料の調査が進み、やがて注目されるようになった。

功績再評価を  
赤水が赤水図の作成にあたって、竹島を日本の領土として記した地誌「隠州視聽合記」（1667年）と「日本志山陰部隠岐国地区」（1752年）を参照していたことも分かった。今年3月には、国の文化審議会が赤水の地図や文書など693点を国の重要文化財（重文）に指定するよう文部科学相に答申した。長久保赤水顕彰会の佐川春久会長（70）は「赤水は歴史学上大きな役割を果たしているのにあまり知られていなかった」と話す。重文指定を機に赤水の知名度を高めようと、顕彰会は専用サイト「CAMPFIRE」で赤水図の復刻版の制作資金300万円を募るCFに取組んでいる。期間は6月16日までで、寄付の返礼品として復刻版を赤水の誕生日にあたる11月6日に発送する予定。

**郵便局からのお振り込み**  
郵便局からのお振り込みは、口座記号番号00380-6-9573、加入者名は、長久保赤水顕彰会です。入会していただける方は、年会費 3,000 円、ご寄付をしていただける方は、一口 1 万円です。何口でも結構です。よろしくお願いたします。

**長久保赤水顕彰会事務局**  
〒318-0103 高萩市大能341 代表 佐川 春久  
Eメール : haruhisasagawa@yahoo.co.jp  
ホームページ : http://nagakubosekisui.org/

長久保赤水顕彰会は全国534名で活動しています（5月25日現在）。国の重要文化財指定記念を機に、会員1,000名を目指し会員を募集しております！また、「通年」の寄付金も募集しております。皆様のご協力をお願い致します。

①3千枚を制作する予定の「改正日本輿地路程全図」の復刻版（いずれも高萩市教委提供）  
②長久保赤水が1768年に作成した「改製日本分里図」。竹島（現在の隠岐島）と松島（現在の竹島）の位置を修正した跡が残る

鮮名が「朝鮮製」の地図にも示されていないことに留意すべき」と書かれていた。同文書には「竹島には朝鮮領の領有権を主張した文書に赤水図の拡大図が添付されていた。赤水図は、幕末の思想家、吉田松陰が赤水図を手に全国を旅したとの記録も残る。しかし、既存の地図や自身の経験をもとに作り上げた編纂図だったため、沿岸部のほとんど全てを測量した実測図の伊能図に比べて精度が劣るとされ、赤水自身の知名度も低かった。だが、赤水の関係資料の調査が進み、やがて注目されるようになった。

**日本橋の『ぶよお堂』に 長久保赤水コーナーが新設**

日本橋の有名な地図専門店（株）ぶよお堂に、長久保赤水関係資料の重要文化財指定を記念して、長久保赤水コーナーを新設していただきました。絵本や赤水図のレプリカ、マンガ、現代語訳、切手、CDなどを販売していただけることになりました。

〒103-0027  
中央区日本橋3-18-16 ぶよお堂ビル地下2階  
☎03-3271-2410です。

江戸時代の地理学者、長久保赤水の「改正日本輿地路程全図」  
(高萩市教育委員会提供)



## 注目度高まる 長久保赤水

茨城県高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（1711～1801年）が近年、知名度を上げていく。初めて実測で日本地図を作った伊能忠敬より42年早く、情報収集による精度の高い「赤水図」を作り、庶民や後世の知識人に広めた功績が評価され始めた。赤水は高萩市赤浜の農家生まれで、水戸藩の学者の下で儒学や地理学を学んだ。30代半ばで正確な日本地図を作ろうと決意し、情報収集や各地の旅を経て、52歳で

### 江戸時代、日本地図研究の先駆者

1821年に完成した伊能忠敬の地図は、伊能自身が実際に各地を歩き歩幅で測量したことで有名。一方で赤水は、自分で集めた地名などの情報を地図に盛り込んだため、内陸の情報も豊富だ。長久保赤水顕彰会の佐川春久会長（70）は「友人が多く、旅人にもお茶をこぼそうして話を聞くなど、情報収集能力にたけていた」と強調する。赤水の関連資料693点は、2017年に県指定有形文化財になるなど徐々に価値を評価されてきたと語り、将来的には大河ドラマの文化審議会は今年3月、ラム化も目指している。

出身地の茨城 絵本出版や顕彰の動き

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（1711～1801年）の関連資料計693点が国の重要文化財に指定されることになった。指定されるのは日本で初めて経緯線のある全国地図を完成させた赤水の資料群で、国の文化審議会が文科相に指定するよう答申。夏ごろまでに答申通り指定される見通しだ。県民にとって新たな誇りとなる。

長久保赤水顕彰会が長年にわたって埋もれていた資料の収集・整理や赤水の功績を伝える活動を続け、その活動を市も支援。市職員、時代から顕彰会の活動を主導し、重文指定という悲願を達成した佐

## 論説 赤水資料の重文指定

川春久会長は「非常にありがたいことで、ようやく第一歩が踏み出せた」と喜びを語る。今後は教科書の掲載や大河ドラマ化を目指す。重文に指定されるのは、赤水の川春久会長は「非常にありがたいことで、ようやく第一歩が踏み出せた」と喜びを語る。今後は教科書の掲載や大河ドラマ化を目指す。重文に指定されるのは、赤水の

復数の子孫宅に伝承してきた一括資料で、地図・絵図84点、文書・記録799点、典籍274点、書画・器物56点の計693点。赤水の学問の内容や交友関係、生涯の業績を考える上で最もまとまった資料群で、学術的な価値が高い。

赤水図は129万6千分の1の縮図で、10里（約40km）が1寸（約3cm）の大きさで、縦横84・6センチ、横128・8センチ。国境や開所、城下町、名所など10種類の記号が使われていて、35歳ごろから地図を学び始めた赤水は先人による地図や縮図で、10里（約40km）が1寸（約3cm）の大きさで、縦横84・6センチ、横128・8センチ。国境や開所、城下町、名所など10種類の記号が使われていて、35歳ごろから地図を学び始めた赤水は先人による地図や

地誌、官製の国絵図など多くの史料を基に編集。自身の実体験や多くの旅人、知人からの話も参考に、20年以上の歳月をかけて完成させた。初めて経緯線を用い、方角が正確に分かり、天文学の知識を取り入れたことも画期的とされ

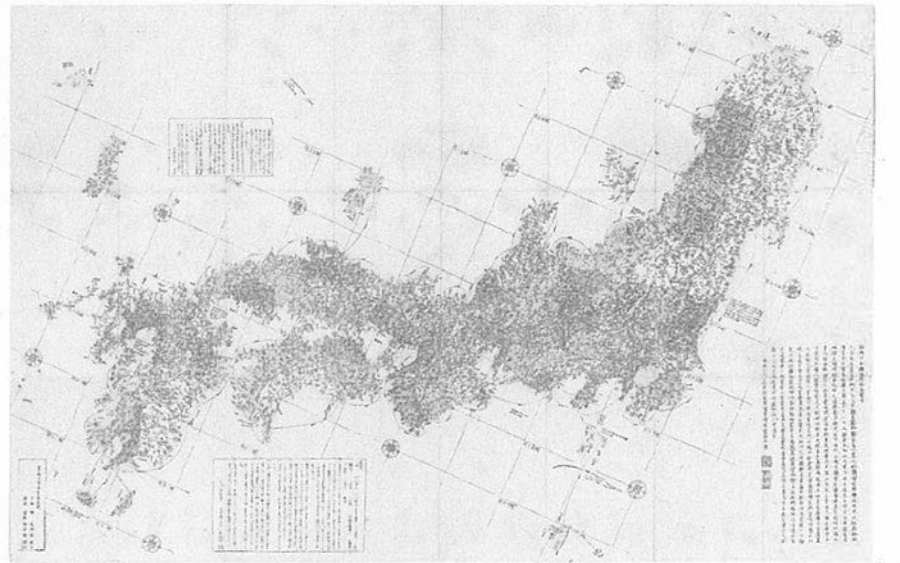
農家に生まれた赤水は農民の苦しみも知った。61歳ごろ、水戸藩6代藩主徳川治保に学問を教える侍講に抜擢された。極めて優秀なことで、赤水は政治にも明るく、今では政策アドバイザー的な立場だったという。その治保公に「農民疾苦」という書を出し、年貢取り立ての運用で苦しめられていた農民を救うために制度の改善を求めた。直訴が禁じられていた時代に成した功績だった。佐川会長は赤水の人柄を「非常に真面目で、高萩に来て見てもいい」と語る。重文指定をきっかけに学術的にも赤水の業績の全容が解明されることを期待している。

今回は「一橋徳川家関係資料」（県、県立歴史館保管）も国の重文指定となる見通しだ。赤水の功績とともにあらためて本県の歴史を学ぶ契機としたい。

## 先人の偉業に学びたい

赤水が天文学の知識を取り入れ、1779年に完成させた日本地図「改正日本輿地路程全図」（赤水図）は江戸時代の庶民の生活を支え、広く愛用された。伊能忠敬が作成した「大日本沿海輿地全図」





長久保赤水の「改正日本輿地路程全図」(高萩市教育委員会提供)

### 伊能忠敬より早い日本地図先駆者

## 長久保赤水 知名度じわり

#### 茨城・高萩 高い精度、功績を評価

江戸時代の地理学者、長久保赤水(1717〜1801年)が近年、知名度を上げている。初めて実測で日本地図を作った伊能忠敬より42年早く、情報収集による精度の高い「赤水図」を作り、庶民や後世の知識人に広めた功績が評価され始めた。

赤水は茨城県高萩市赤浜の農家生まれで、幼い頃に両親を亡くした。親族に育てられながら、学問に興味

を持ち、水戸藩の学者らの下で儒学や天文学、地理学を学んだ。30代半ばで正確な日本地図を作ろうと決意し、情報収集や各地の旅を経て、52歳で初めての地図を完成。功績が認められ水戸藩主の侍講になった。

赤水の地図は天文学を取り入れたことで、日本で初めて経線と緯線が書かれ、比較的正確なのが特徴。中でも1779年に初版が完成した「改正日本輿地路程全図」(通称・赤水図)は

実用性が高く、江戸時代の庶民に広く流通した。幕末の志士を育んだ吉田松陰(1830〜59年)が兄に宛てた手紙には「これが無くしては不自由」と、赤水図を旅に役立てていたことが記されている。

1821年に完成した伊能忠敬の地図は、伊能自ら実際に各地を歩き歩幅で測量したこと有名。一方で赤水は、自分で集めた地名などの情報を地図に盛り込んだため、内陸の情報も

豊富だ。長久保赤水顕彰会の佐川春久会長(70)は「友人が多く、旅人にもお茶をこちそうして話を聞かなくなど、情報収集能力にたけていた」と強調する。

赤水の関連資料693点は、2017年に県指定有形文化財になるなど再評価が進み、国の文化審議会は今年3月、同資料を国の重要文化財に指定するよう文部科学相に答申した。

さらに知名度を上げようと顕彰会は同月、赤水が地図に書き残した海上現象を元に、絵本「りゅうのひかり」を出版。縦約84センチ、横約128センチの赤水図のレプリカ発行を目指し、資金300万円をクラウドファンディングで募っている。

動きは県外にも広がっており、吉田松陰ゆかりの松陰神社(山口県萩市)でもレプリカが展示される見通しだ。佐川さんは「世界で通用する、誇れる先人の一人。地理の歴史の中に赤水図をしっかりと位置付けた」と語り、将来的には大河ドラマ化も目指している。

### 赤水の手紙

(長男・藤八郎へ…) 續長久保赤水書簡集現代語訳から抜粋  
(前略) 昼夜読書し、田畑へ出ても書物を離さず、荷運搬や鼻取り(田植え前の代掻きの際などに、竹竿で牛馬を誘導)をしながらも書物を読みながら仕事をし、五十年一日のように学問

に励み勤めて来て、君侯(殿様)の侍講をも勤める身になった。これもつまりは柴田平蔵兄(松岡七友(七賢人)の一人、柴田愿恭(東江)。平蔵は通称で二歳年上)の恩と教えによるものである。(略) 学問というものは、道理法則を窮め、惑いを解き心を堅める菜なのだ。学問をしない人は心の要が弱く、日を追って成人するに従い、そ

の心が弛み、他の悪事に染まる故に、千万長者もいつとはなく衰えてしまうものだ。これをきちんと矯正して家を中興する事は、学問をした人でなければ出来ない。学問はうわべだけの華やかさを抑え、(虫損)学問や徳のある行いを専らにし、酒と色事と賭博などを極めて嫌う人でなければ、学問を成就することは難しいであろう。

### 赤水の手紙

(藤八郎・四郎次・文右衛門・おたけへ…) 續長久保赤水書簡集から抜粋  
一 私はおおそ、日本国の地理については胸中に疑問はないのだが、ただ南部津軽だけは聞見不足で残念に思っている(略) 学者医師の河口寿庵(ママ：川村寿庵)という者は、地理に興味を持って

いる事は、私以上である。南津軽の事について、甚だ精しくて私の所へ参り、輿地図を改正した方が良いと、教えられたので、愚老(赤水)大喜びして、すぐに寿庵が所持する正図を縮め、十里を一寸に決めて改正した。大坂へ送った所、藤屋も至極悦んで、早速、改めて版木を彫った。大和の国南部と春日大社が脱落した事、残念なので五畿内も彫り直し、摺本が来たので、遣わす。

## 伊能忠敬だけじゃない

### 江戸時代の地理学者・長久保赤水

茨城県高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水(1717〜1801年)が近年、知名度を上げていく。初めて実測で日本地図を作った伊能忠敬より42年早く、情報収集による精度の高い「赤水図」を作り、庶民や後世の知識人に広めた功績が評価され始めた。

赤水は高萩市赤浜の農家生まれで、幼い頃に両親を亡くした。親族書かれ、比較的正確なのが特徴。中と強調する。

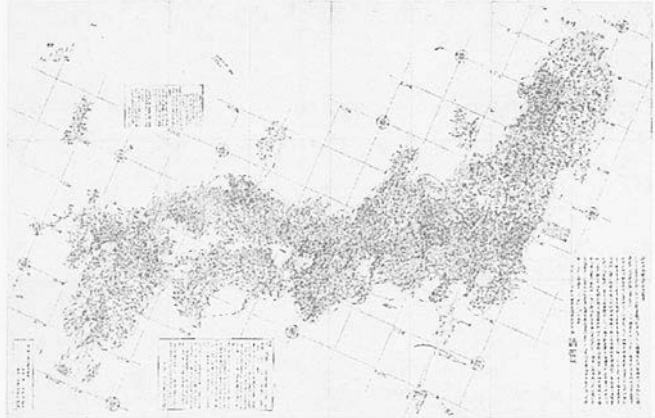
赤水の地図は天文学を取り入れたことで、日本で初めて経線と緯線が書かれ、比較的正確なのが特徴。中と強調する。

でも1779年に初版が完成した「改正日本輿地路程全図」(通称・赤水図)は実用性が高く、江戸時代の庶民に広く流通した。幕末の志士を育んだ吉田松陰(1830〜59年)が兄に宛てた手紙には「これが無くしては不自由」と、赤水図を旅に役立

ていたことが記されている。赤水の関連資料693点は、2017年に県指定有形文化財になるなど再評価が進み、国の文化審議会は今年3月、同資料を国の重要文化財に指定するよう文部科学相に答申した。

さらに知名度を上げようと顕彰会は同月、赤水が地図に書き残した海上現象を元にした絵本「りゅうのひかり」を出版。縦約84センチ、横約128センチの赤水図のレプリカ発行を目指し、資金300万円をクラウドファンディングで募る。

佐川さんは「世界で通用する、誇れる先人の一人。地理の歴史の中に赤水図をしっかりと位置付けた」と語り、将来的には大河ドラマ化も目指している。



長久保赤水の「改正日本輿地路程全図」(高萩市教育委員会提供)



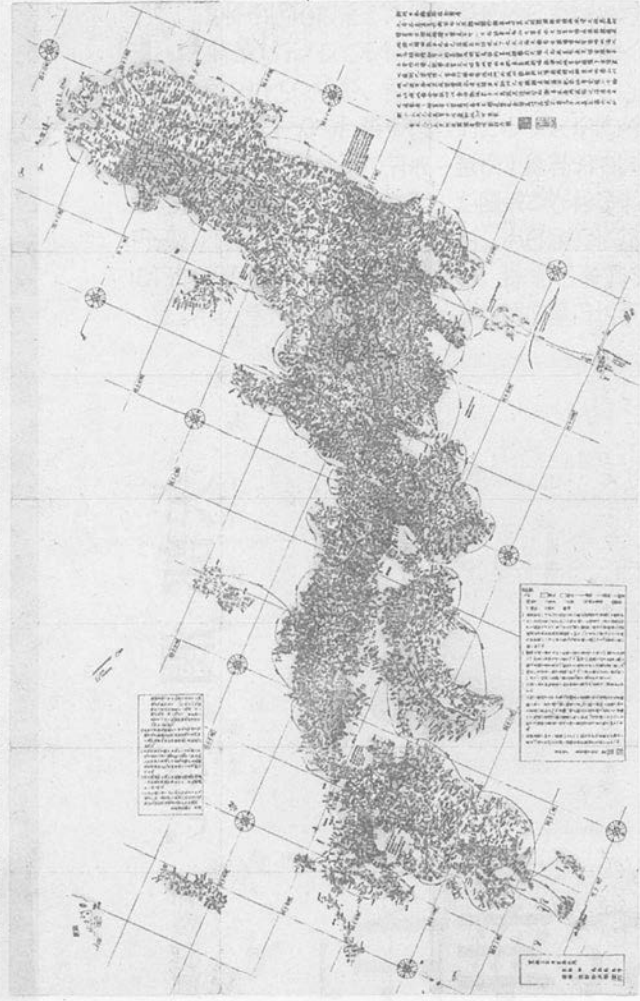
JR高萩駅前にある長久保赤水像(茨城県高萩市)



# この地図 ← 作ったのだから?

JR高萩駅前にある長久保赤水の像 茨城県高萩市中

江戸時代の地理学者、長久保赤水の「改正日本輿地路程全図」＝高萩市教育委員会提供



茨城県高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（一七七一～一八〇二年）が近年、知名度を上げている。初めて表測で日本地図を作った伊能忠敬より四十二年早く、情報収集による精度の高い「赤水図」を作り、庶民や後世の知識人に広めた功績が評価され始めた。

## 伊能より42年早く

赤水は高萩市赤坂の農家生まれで、幼い頃に両親を亡くした。親族に育てられながら、学問に興味を持ち、水戸藩の学者らの下で儒学や天文学、地理学を学んだ。三十年代半ばで正確な日本地図を作ろうと決意し、情報収集や各地の旅を経て、五十二歳で初めての地図を完成。功績が認められ水戸藩主の侍講になった。

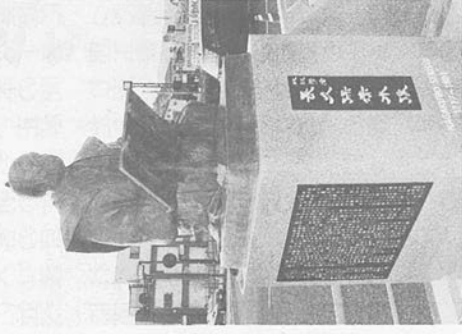
赤水の地図は天文学を取り入れたことで、日本で初めて経緯と緯線が書かれ、比較的正確なのが特徴。中でも一七九九年に初版が完成した「改正日本輿地路程全図」（通称・赤水図）は実用性が高く、江戸時代の庶民に広く流通した。幕末の志士を育てた吉田松陰（一八一〇～五九年）が兄に宛てた手紙には「これが無くしては不自由」と赤水図を旅に役立てていたことが記されている。

# 長久保赤水 知名度じわり

一八二二年に完成した伊能忠敬の地図は、伊能自らが実際に各地を歩き歩幅で測量したことで有名。一方で赤水は、自分で集めた地名などの情報を地図に盛り込んだため、内陸の情報も豊富だ。長久保赤水顕彰会の佐川春久会長（60）は「友人が多く、旅人にお茶をどうぞとして話を聞くなど、情報収集能力にたけていた」と強調する。赤水の関連資料六百九十三点は、二〇一七年に県指定有形文化財になるなど徐々に価値を評価され、国の文化審議会は今年三月、同資料を国の重要文化財に指定するよう文部科学相に申請した。

## 地元顕彰会がPR

さらに知名度を上げようと顕彰会は同月、赤水が地図に書き残した不思議な海上現象を元にした絵本「りゅうのひかり」を出版。縦約八十四センチ、横約百二十八センチの赤水図のレプリカ発行を目指し、資金三百万円をクラウドファンディングで募る。動きは県外にも広がり、今後、吉田松陰ゆかりの松陰神社（山口県萩市）でもレプリカが展示される見通しだ。佐川さんは「世界で通用する、誇れる先人の一人。地理の歴史の中に赤水図をしっかりと位置付けたい」と語り、将来的には大河ドラマ化も目指している。



# 長久保赤水

## 関係資料693点が国民の財産に 国の重要文化財 指定が決まる

長久保赤水関係資料693点の国重要文化財指定が決定する。この資料群は、長久保赤水の子弟にあたる長久保家などの伝世品で、地図・絵巻類84点、文書・印刷類279点、書籍類274点、書画・器物類56点から構成される。赤水の学問の内幕、交友関係、生涯の事績を客観的に明らかにし、後世の文化史、地図学等の学術的価値が高い。

資料群は長久保家伝世品を中心に構成され、長久保赤水の学問の内幕、交友関係、生涯の事績を客観的に明らかにし、後世の文化史、地図学等の学術的価値が高い。資料群は長久保家伝世品を中心に構成され、長久保赤水の学問の内幕、交友関係、生涯の事績を客観的に明らかにし、後世の文化史、地図学等の学術的価値が高い。

年	事
1771	長久保赤水（本名：長久保赤水）誕生
1799	『改正日本輿地路程全図』初版発行
1802	長久保赤水の没
1822	伊能忠敬の『東洋輿地全図』完成
2017	長久保赤水関係資料693点の国重要文化財指定が決定

## 改製日本分里図



20年以上の歳月をかけて作成した「改製日本分里図」は生々しい修正画が残り、長久保赤水の「行と測定の経緯」であることがわかる。



「赤水図」長久保赤水を記念発行！

「赤水図」長久保赤水を記念発行！



年	事
1771	長久保赤水（本名：長久保赤水）誕生
1799	『改正日本輿地路程全図』初版発行
1802	長久保赤水の没
1822	伊能忠敬の『東洋輿地全図』完成
2017	長久保赤水関係資料693点の国重要文化財指定が決定



# 20年以上かけ作成

## 地図への情熱

### 先駆者

長久保赤水「重文指定」

江戸時代の民の生活を支えた「ベストセラー」。高萩市出身で江戸時代の学者、長久保赤水（1717～1801年）は1779年、日本地図「改正日本輿地路程全図（赤水図）」を完成させた。国の文化審議会は3月19日、赤水の関係資料（同市歴史民俗資料館保管）を国指定の重要文化財（美術工芸品）に指定するよう萩生田光一文部科学相に答申。赤水に魅了され、顕彰活動を続ける関係者に話を聞きながら、赤水の業績と人物像に迫った。

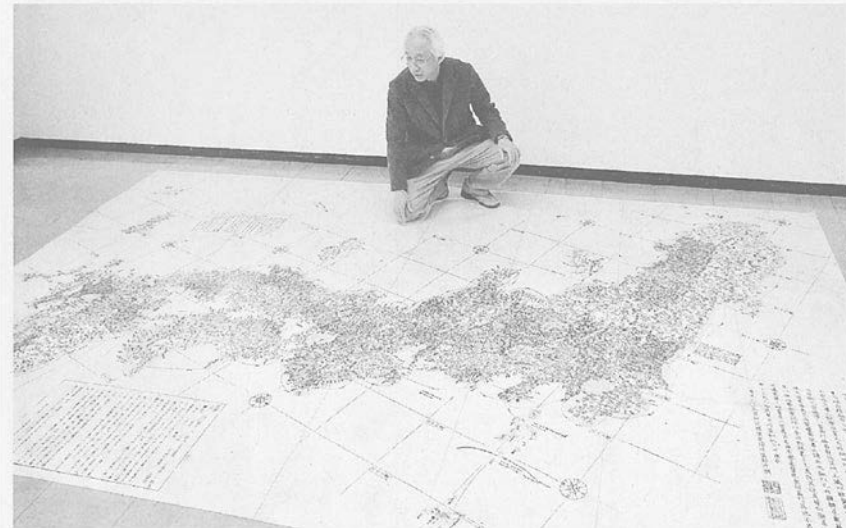
### ▽「伊能図」より前

地図作成で著名な伊能忠敬による「伊能図」よりも42年早く、赤水は実用性に富み、流し業績で、赤水は地図作成の通に、旅に民に愛用された。先駆者と言える。



長久保赤水の自画像（高萩市教育委員会提供）

## 高い実用性、広く普及



赤水が地図を学び始めたのは35歳の頃。先人による地図や地誌、官製の国絵図など多くの資料を基に編集。自身の体験や多くの旅人・知人からの話も参考に、20年以上の歳月をかけて赤水図を作成した。赤水図は129万6千分の

1の縮図で、10里（約40km）が1寸（約3cm）。大きさは縦84・6寸・横128・8寸。国境や関所、城下町、名所など10種類の記号が使われている。

### ▽面積は9倍

三浦さんは昨年、赤水図を3倍に拡大した地図を印刷会社に個人で発注して作り、同会に寄贈した。縦27・53寸、横31・86寸となり、面積は9倍と圧巻だ。

赤水図は宿場のある地名や地形などが細かく記載されており、原寸では見づらいのが難点だった。

三浦さんは「3倍にしたことで文字が読みやすくなった。例えば自分の出身地の地名などを見られるので、赤水図に興味を持ってもらうことに役立った」と目を細める。3年前までは赤水について「ちらっと知っている程度だった」と三浦さん。深く知るうち、業績や育った環境に面白みを感じた。

赤水は幼くして家族を次々に亡くした。だが継母は「農民だから教育はいらない」との方針ではなく、本を読ませ、医師の私塾に通わせた。良い教育によって赤水という名の「ロケット」がドンと打ち上がった。三浦さんは赤水の生涯を「表現する。原寸の3倍大の赤水図を見詰める三浦邦明さん（高萩市内）」

### 赤水の手紙

（長男・藤八郎へ…）  
久保赤水書簡集現代語訳から抜粋

（前略）必ず必ず村役人などへ申し出て訴訟などにかかり合うのは以ての外である。ご公儀の権力を借りて貧しい人から益（金）を取ることは、棄てるよりはるかに劣るといふことを心得るべきである。（略）第一に子孫は誰によらず村役人などになりたいと思う心、或いは金儲けしたいという考え、こういうことが平常心の中に生じないよう教育しなさい。ただ農業にのみ励み、質素節約を旨とし、余暇には学問（学問）に精進し楽しむことばかり心がけることが良いのである。

### 赤水の手紙

（長男・藤八郎へ…）  
久保赤水書簡集現代語訳から抜粋

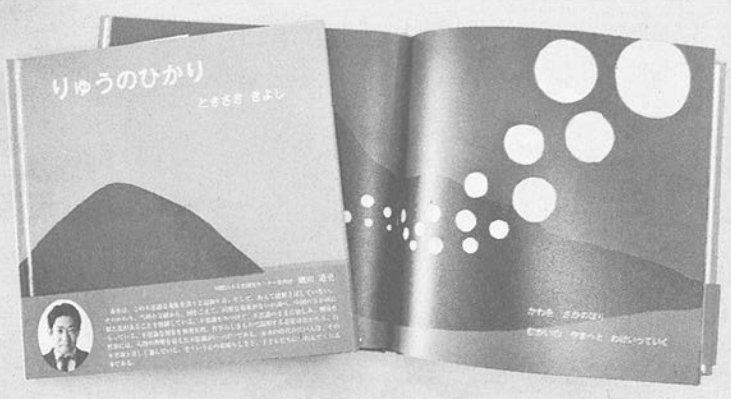
（前略）殊に来年の正月ついたち（注1天明六年（一七八六）正月元旦）には、日食がある。一日の朝の日食は昔から現在まで調べてみると、凶作か、戦乱（乱世）か、とにかく変わった事が起こる可能性があるという。用心するように。（略）大凶年になって餓死する人が出るような時は金を持っていても人を救うことは出来ない。ただ穀物だけが人を救うことが出来るので、金を貯える事を考えず、穀物を備蓄するように今年心がけよ。来年の正月（虫損）以降は、大変になると懸念される。

注1天明六年【この年、赤水の予言の通り、高萩地方では、五月から雨が降り続き冷気が七月十二日から十八日までの昼夜、間断なく大雨が降り、大洪水が起こった。この大凶作のため、関東地方や東北地方だけでなく日本国中の農村も大きな被害にあい荒廃している。】

# 赤水顕彰会が絵本発行

## 資料の重文指定決定記念

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717～1801年）の功績を伝える長久保赤水顕彰会（佐川春久会長）は、赤水が地図上に書き残した海の不思議な現象の記述を基に、絵本「りゅうのひかり」を発行した。光る玉が海で生まれ竜の姿へと変わり、やがて林の中で滴になって消える様子を幻想的に描いている。顕彰会は、赤水関係資料の国重要文化財への指定決定を受け、記念事業として製作した。



長久保赤水顕彰会が発行した絵本「りゅうのひかり」

## 高萩 海の不思議、幻想的に

赤水は「改正日本輿地路程全図（赤水図）」の第2版（1791年）で、現在の福島県いわき市四倉沖の箇所に「開伽井嶽の龍燈」と呼ばれる現象について記した。四倉沖の海で毎晩、かがり火ほどの大きさの火が発し、川をさかのぼり開伽井嶽の麓に達し、林の中に消える。現象は夜の始めから翌日の日の出まで途切れることなく続き、開伽井嶽からしか見ることができないという内容だ。



「改正日本輿地路程全図」2版

細に書かれている地図だが、四倉沖のほか九州の福岡県沖や有明海にも不思議な現象についての記載がある。佐川会長は「赤水は世の中の不思議なことを地図に残したいという気持ちがあつたのではないか。（絵本から）真摯な学問の姿勢を知ってほしい」と話す。時崎さんは、不思議なことを全て科学的に説明しようとするのではなく「自然に耳を澄ませ、そのまま受け止める大切さを感じてもらえれば」と語った。儒学や天文学、地理学などを学んだ赤水は1779年に赤水図の初版を完成させた。国の文化審議会は3月、赤水の関係資料を国指定の重要文化財（美術工芸品）にするよう萩生田光一文部科学相に答申。夏（7月）までに答申通り指定される。（小原瑛平）



# 知名度向上へ奔走

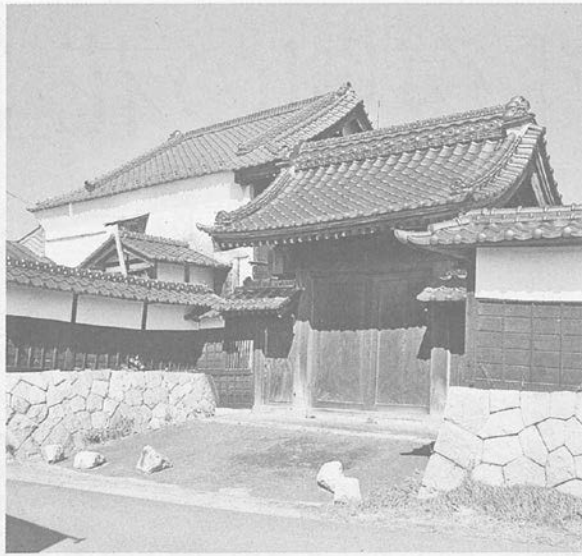
## 郷土の誇り

### 先駆者

長久保赤水(重文指定)

「赤水先生の業績をなんと 学相に答申。夏(ころ)までに指 定される。1992年に設立 した『国指定』にしたい思いが あった」。

国の文化審議会は3月19 日に取り組んできた長久保赤水 日、長久保赤水の關係資料を 顕彰会の佐川春久会長(70) 國の重要文化財(重文)に指 定するよう萩生田光一文科部 喜ぶ。



「長久保赤水記念館」として活用する構想がある屋敷。高萩市赤浜

## 講演や銅像、陶板建立も



長久保赤水の功績を後世に伝えるため活動 を展開する佐川春久さん＝JR高萩駅前

「すごいことをやったのに 赤水はあまり世に知られてい ない。非常にもったいない」 との思いを強く持つ。201 2年に会長に就任して以来、 赤水の知名度向上のためさま ざまな事業の実現に奔走し続 けてきた。

伝記漫画や書簡集などの発 行、赤水図のレプリカ作成、 ゆかりの地を巡るウォーキン グ会、講演などやれることは 何でもやった。日本地図学会 との連携も進めている。

▽地域資源に  
赤水一族の一部の子孫は今 も高萩市に暮らすほか、赤水 関連の史跡や施設が市内に点 在する。

赤水の墓は潮騒が聞こえる 海沿いの林の中に立つ。同会 員会は2012年、JR高萩 駅前の広場に赤水の銅像と赤 水図の陶板を建立した。子孫 から「現在使っていない屋敷 を赤水のPRに活用してほし

い」との打診があったため、 今後、市と調整しながら「赤 水記念館」として改修してい く構想もある。

佐川会長は、同市が赤水を 生んだ地であることをPR材 料とし、これらの史跡や施設 を資源として活性化に生かし ていくべきだと考え、市にも 提案を重ねている。

### ▽後世へ伝える

重文指定で「国民の財産に なった」(佐川会長)ことを 好機とし、同会は今後積極 的に事業を展開していく。

幕末の思想家、吉田松陰も 赤水図を重宝したと考えられ ることから、松陰が東北での 旅について書き記した「東北 遊日記」の足跡を記載した赤 水図のレプリカを制作する予 定。現在、インターネットで 資金を募るクラウドファン ディングで支援を求めている。

佐川会長は、市内の小学生 がテレビ番組のインタビュー で「赤水は街の誇りです」と 答えていた姿がうれしく、印 象に残っている。

「茨城が生んだ世界に誇れ る先人の一人」。赤水の功績、 そして努力を惜しまず人のた めに働いた生き様を水く後世 に伝えていくため、佐川会長 と同会会員たちの活動は続 く。

(この連載は日立支社・小原 瑛平が担当しました)

### 赤水の手紙

(長男藤八郎、次男 四郎次、孫の作之丞 【藤八郎の長男】へ… 續長久保赤水書簡集 現代語訳から抜粋)

(前略) 書を読むこと は、名人たちの口頭 での教えを受けるの と同じである。隙さ へあれば気を許さず 励むよう。書を買ひ 求める金銭を惜しん ではないけない。



# 好奇心、学問究める

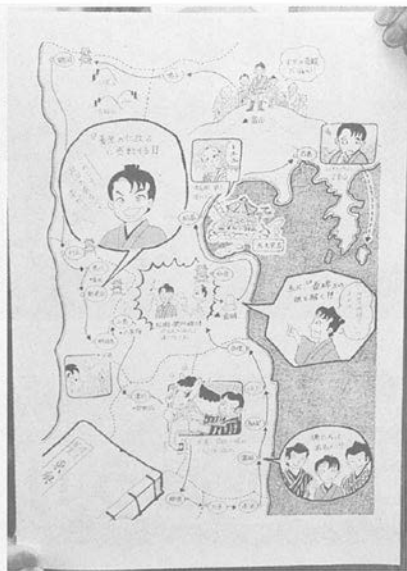
## たゆまぬ努力

### 先駆者

長久保赤水(重文指定)

長久保赤水(1777-1801年)は現在の高萩市赤 浜の農家に生まれ、幼い頃から 勉強好きだった。

「読書に夢中になるあまり、 頼まれた家事を忘れてしまっ たことがあったらしい」。赤水 の研究を長年続けてきた赤水 顕彰会顧問の長久保源蔵さん (89)が語る。



漫画「長久保赤水の生涯」で、赤水が東北を旅し た際の記録「東國紀行」の内容を表したページ

## 藩主に制度改善「直訴」も



新しい伝記漫画の発行に向け作業する黒沢貴子さん＝高萩市内

もとは儒学を深く学んだが 「好奇心で手を広げていった 結果、天文や地理が肌合っ ていたのかな」(源蔵さん) と、地図作成の道に進んだ。

### ▽「農民疾苦」

61歳の頃、赤水は水戸藩6 代藩主徳川治保に学問を教え る侍講に抜てきされた。赤水 を推挙した郡奉行、皆川教純

「いち農民学者が御殿に上 るのは有史以来初めてのこ と」と述べたという。

赤水は政治にも明るかつ た。1778年、治保公に対 し、「農民疾苦」という書を 上程。年貢取り立ての運用が いかに農民を苦しめているか 記し、改善すべき制度を具 体的に列挙した内容だ。直訴な どが禁じられていた時代で、 処分を受ける可能性もあっ たが、最終的には改善に結び ついたという。

### ▽漫画で伝記

高萩市の主婦、黒沢貴子さ ん(53)は2017年、赤水頭 彰会の事業として伝記漫画を 描いた。柔らかな絵柄と、化 け猫を物語のナビゲーターと して登場させるなどの工夫で 赤水の生涯を分かりやすく描 いた。

資料を読み込み、かみ砕い て漫画として表現する作業の 中、赤水の人生は「ドラマチ ャックで、成功のプロセスを踏 んでいる」と感じた。11歳で 父を「くし、生きていくため 」変わらざるを得なくなっ た。地図作成では多くの人の 助けを得た。そうした出来 事が赤水の力になったと想像 する。

漫画家を目指した時期があ ったが簡単な道ではなく、挫 折を経験。赤水と自身を比べ たとき、「私は漫画を描きたい と思っても、誰かの役に立っ たいと思っただけはなかった」。

伝記漫画を読んだ人から 「赤水のことがよく分かりま した」と言われることで、役 に立てたのだと感じられた。 赤水との出会いが、自信と喜 びにつながった。切り口を変 えた漫画を来年新たに発行す るため、再び構想を練ってい

### 赤水の手紙

(長男・藤八郎へ … 續長久保赤水書 簡集現代語訳から 抜粋)

(前略) たくさん 菊漬を食べて寿命 を延ばそうと思っ ている(赤水は 『地理志』成就の ために長寿を願っ て菊漬を愛用し た)。(略) 学問の ない者は百歳を経 ても生きた甲斐は ない。(略) だか ら君子(学識のあ る人格者)は生涯 学問を怠らぬ人な のだ。それゆえ天 の助けもあるの だ。私は自分自身 に経験があるから こういうのだ。



# 赤水さん 地図に広がるいきいき人生

## 1 目覚め

これから長久保赤水（以後、赤水さんと呼びます）のことを書きます。と言ってもげんに思う人もいるかもしれませんので、長久保家の一族で、「地政学者長久保赤水伝」（暁印書館）などの著書も多い長久保片雲（本名・源蔵）さん（89）＝高萩市＝に語ってもらいます。

「彼は通称を源五兵衛といい、農民の長男として今の高萩市赤浜で生まれ、35歳ごろから日本地図を作り始めた人なんです。彼が作った地図は、当時としてはもともとも信頼され、ひとびとに愛用されたんですね」農民の子ながら、ひとびとに愛用される日本地図を作った人が茨城県にいたなんて。赤水さんってどんな生い立ちなのか、とってても気になります。

西暦で言えば江戸時代中期の1717（享保2）年11月、当時の常陸国赤浜村で生まれます。彼は虚弱児だったらしく、早くも医師からこう告げられたというんです。「この子は40歳まで生きられないだろう」と。ところが実際は数えて85歳という長寿を全うされたんですね。けれど、不運な少年時代を過ごします。

## 父母他界 不運な少年時代



晩年の長久保赤水を描いた肖像画＝県立図書館蔵

伊能忠敬の地図より42年も早い1779年に完成した「改正日本輿地路程全図（初版）」  
＝高萩市歴史民俗資料館蔵



8歳のとき弟を亡くします。翌年に母のおしげが亡くなり、その2年後、今度は父の善次衛門が亡くなります。彼は11歳で肉親を失ってしまふんです。

特に母の死は彼にとっても大きな衝撃だったに違いありません。と言っているのは、母から文字の読み書きを教えられたことで彼の知的欲求は芽生えたからです。当時は紙も貴重品。なので母は丸いお盆に載せた白い砂に指で文字を書き、我が子に伝えたのです。赤水さんもひとつ覚えると次が知りたくなり、好奇心をどんどん深めていくのでした。

「なにしろ夕立がきても庭に干した麦を取り込むことを忘れるほど読書に夢中だったので、父親にこっぴどく怒られたぐらいなんですよ」（片雲さん）

もともと生家は庄屋でしたから村政に携わる関係上、読み・書き・そろばんができれば務まりませぬ。けれど母の死で文字を覚える手立てを失います。ここで彼を救い、後々まで支えたのが継母のおかんです。

父の善次衛門は妻を亡くした翌年、おかんと再婚します。しかし、その1年後、今度は善次衛門が亡くなります。おかんは実父から「離縁して実家に戻れ」と告げられます。おかんがこれに従えば、赤水さんは

東北旅行に向かった吉田松陰も歩いたものです」途中、赤水さんの墓地在あり、参拝。黒ずんだ赤水さんの墓石の右に父の善次衛門、母おしげ、継母おかの墓が並んでいました。赤水さんの旧宅まで車で5分。こちら旧街道沿い

も、東北旅行に向かった吉田松陰も歩いたものです」途中、赤水さんの墓地在あり、参拝。黒ずんだ赤水さんの墓石の右に父の善次衛門、母おしげ、継母おかの墓が並んでいました。赤水さんの旧宅まで車で5分。こちら旧街道沿い

伊能忠敬（1745～1818）が全国を測量して作製した「大日本沿海輿地全図」より42年も早く、農民出身の長久保赤水（1717～1801）は、収集した様々な地図と旅人らの情報を元に、当時としては最も信頼性が高く、利便性に優れた「改正日本輿地路程全図」を完成させます。

この人物の生涯を岡村青さんがゆかりの人や土地を訪ねて紹介します。岡村さんは真壁町（現桜川市）生まれで、「血盟団事件 井上日召の生涯」（三一書房）や「十九歳 テロルの季節」（現代書館）など著書多数。連載は原則木曜日に掲載します。

### 赤水の手紙

（次男・四郎次へ：續長久保赤水書簡集現代語訳から抜粋）

（前略）なお、老人（赤水）の食事は、第一に菊を賞味することである。去年から菊の花が不足している。藤八郎からも大分送られて来るが、欲を言えばまだ不足している。今年の秋はどのようになるのか。去年の花のように少なくて残念である。藤八一家だけでは間に合いません。隣の所、知り合いの所へも少しずつ頼んでもらいたい。毎日の食事に砂糖漬け、味噌漬けなどにもいろいろ調理して食べたい。第一に目の薬にするので、長命を願うものではない。死ぬまで目の力の助けになる薬味なので欲しいのである。川尻のお竹（赤水の娘。川尻村（現日立市）の丹藤左衛門貞雄へ嫁す）にもついでに話してくれば、鮑の腸の塩漬（塩辛）を時々少しづつ、ついでに贈ってくれるようにしてほしい。これも私の薬味にしたいものだ。

# 赤水さん 地図に広がるいきいき人生

## 2 継母

江戸時代中期の1779（安永8）年、数え63歳のとき、日本で初めて緯線と方角線の入った全国地図「改正日本輿地路程全図」を作製した常陸国赤浜村（現高萩市赤浜）の長久保赤水さん（1717～1801）。生家は水戸とみちのく仙台を結ぶ街道に面していました。地元では「奥州道」と呼んでいたようので、生家前は往来する旅人が絶えませんでした。

「ここが赤水の誕生地です。けど彼がここにいたのは8歳まで。その後、彼の父が分家するからです」高萩市赤浜の長久保総本家の跡地に立つ「長久保赤水誕生地」と深く刻まれた石碑の前で、一族の長久保片雲（本名・源蔵）さん（89）はこう説明してくれました。現在ここには片雲さんが住んでいます。

片雲さんに車に乗ってもらい、旧街道を通って赤水さんが暮らした分家に向かいました。「赤水はこの道を何度も往復したし、後に日本地図を作った伊能忠敬

## 肝っ玉おかんあつての「偉業」



赤水旧宅の門の二つ。旧街道に面している



です。いまの国道6号と交わる北茨城市との境付近。赤水さんが測量をせずに詳しい日本地図を作製できたのは、家の前を行く旅人ら呼び止めて地名や地形の話聞いていたからなんです。赤水さんの旧宅まで車で5分。こちら旧街道沿い

長久保赤水の誕生地を紹介する長久保片雲さん＝いずれも高萩市赤浜

おかんは遺言を受け止めた。赤水さんを無事に育てることを心に誓います。雇っていた農民夫婦とともに田畑を切り盛りします。赤水さんにとってなによりも心強かったのは学問に打ち込むことを理解してくれ、温かく見守ってくれたことです。長久保本家のおじが「本を読みながら農作業をやるとは何事だ。農民のせがれに学問は無用だ」と赤水さんをたしなめたのに対し、おかんは「ひととは誰でも道楽のひとつやふたつはあるもんで、ぼくちや酒飲みなんかより文章を学ぶほうがいいにきまってましょ」とかばうのでした。

おかんは赤水さんが14歳のとき下手綱村（現高萩市下手綱）の医師、鈴木玄淳が開く私塾に通わせます。赤水さんは他の塾生と切磋琢磨して、次第に才能を開花させていくのです。

（フリーライター・岡村青）  
＝原則木曜日の掲載です



赤水の手紙

（前略）少しでも隙があつたならば昼夜ともに読書をおぼえてはならない。（略）書物に向かった時には、祖父（赤水）の顔を見るのと同様に心得怠けてはならない。

（孫の作之丞【藤八郎の長男】へ：續長久保赤水書簡集現代語訳から抜粋）



# 赤水さん 地図に広がるいきいき人生

## ③きっかけ

数え14歳から通った常陸国下手綱村(現高萩市下手綱)の私塾でめきめきと才能を伸ばした長久保赤水さん(1717~1801)は32歳の頃、奥州いわき(いまの福島県)の寺に招かれます。「論語古訓」の講義を頼まれるんです。

「この頃だと思っんですよね。途中で道に迷ったりして、地図の必要性を痛感したんじゃないかなあ」

江戸中期から明治にかけてベストセラーとなった日本地図「改正日本輿地路程全図」(通称赤水図)を63歳で作上げた赤水さん。一族の長久保片雲(本名・源蔵)さん(89)＝高萩市＝に「なぜ地図作りに目覚めたのでしょうか？」と尋ねたところ、返ってきた答えがこれでした。赤水さんは35歳の頃から、地図を書き始めたといわれています。

でも、赤水図を見ると本当に道に迷ったんじゃないかと思わされます。街道、河川、宿場、名所・旧跡などが詳細に書き込まれています。だから発売されるとたちまち評判となり、旅行

# 道迷い着想? サービス精神満載



⑤綿引正義さん方に伝わる「赤水図」  
⑥「赤水図」を所有する綿引さん。見ているのはレプリカ=いずれも石岡市

に、ビジネスにと愛用されるんです。

その地図がなんと、石岡市の綿引正義さん(73)方に伝わっています。歴史の重みを感じます。でもなぜ綿引家にあるのでしょうか。

「5代前の政八郎のものではないかと想像していましたが、江戸時代末ごろまで松本屋という旅館を営んでいた。政八郎は信心深い人で、全国の神社仏閣に参拝するためによく旅行していたので、この地図を頼りに歩いていったと思うんです」

赤水図がベストセラーになった理由は、誰もが自由に購入できたという点にある。

「現代語訳 長久保赤水書簡集」から。南溪は現在の福岡県生まれの九州男児。酒豪で些事(昌平坂学問所の前身)でしなやかなこと「ポロ十蔵」(十蔵は通称)と陰口をたたかれたほどの豪傑。赤水さん、20代半ばで南溪に入門します。

鈴木玄淳の私塾も忘れられませんが。玄淳と赤水さんら門人はみな優秀で、地味な心構えが説いてありました。四書五経、漢書、後漢書など中国の史書の熟読をすすめ、「結局、学問は心がけ次第。(修めるには)人生の半分以上はかかる仕事です」と諭し、最後に「書では言い尽くせませんので、お会いしてお話ししましょう」と結ぶのです(長久保赤水頭彰会発行)

「玄淳先生の私塾は渡辺さんちの敷地内にあつたといわれるんです。渡辺さんの先祖は、能筆で知られたまな弟子ですよ」

赤水さんは数え23歳で、またいこのお願を妻にめとります。25歳で長男、27歳で次男が生まれ、学問も家庭生活もますます充実した時期なのです。

赤水さんはいよいよ、地図作りに踏み出します。(フリーライター・岡村青)＝原則木曜の掲載です

## 赤水の手紙

(長男・藤八郎へ) 續長久保赤水書簡現代語訳から抜粋

(前略) 殿様は年貢の上がりが悪く手元不如意(意)の如くならず経済的に苦しいこと。思い通りにならないこと)のためお借り上げ(藩が一般から金を借り出すこと)という新法を定められた。でもこれは一時的なこと、たかだか三年か五年の内に元のようになされるであろう。(略) 当節のお借り上げなどは予定外の事である。これらの事は赤水が政策をさし上げたのでこのようになった。ご政務なのである。将来うまくいくように愚案したものである。

# 赤水さん 地図に広がるいきいき人生

## ④よき師よき友

江戸時代のベストセラーとなる日本地図「改正日本輿地路程全図」(赤水図)を世に送り出すほどの大仕事をやる人はやはり、よき師、よき友に恵まれるんですね。長久保赤水さん(1717~1801)を見るとうしろへよき師、よき友がいます。

20代の赤水さんはまだ、地図作りに目覚める前です。農作業の傍ら、常陸国赤浜村(現高萩市赤浜)から下手綱村(現同市下手綱)の医師鈴木玄淳の私塾に通い、仲間と詩文、漢文などに励みます。

一方、さらに知識を深めるために水戸藩の儒者名越南溪に封書を送ると、返事



鈴木家の墓を管理する渡辺文昭さんと律子さん。大きい墓が玄淳、小さい墓は玄淳の妻、阿清(おきよ)＝高萩市下手綱

# 大学者から返事が来ちゃった

返書には学問を「ごさず者の心構えが説いてありました。四書五経、漢書、後漢書など中国の史書の熟読をすすめ、「結局、学問は心がけ次第。(修めるには)人生の半分以上はかかる仕事です」と諭し、最後に「書では言い尽くせませんので、お会いしてお話ししましょう」と結ぶのです(長久保赤水頭彰会発行)

「玄淳先生の私塾は渡辺さんちの敷地内にあつたといわれるんです。渡辺さんの先祖は、能筆で知られたまな弟子ですよ」

赤水さんは数え23歳で、またいこのお願を妻にめとります。25歳で長男、27歳で次男が生まれ、学問も家庭生活もますます充実した時期なのです。

赤水さんはいよいよ、地図作りに踏み出します。(フリーライター・岡村青)＝原則木曜の掲載です

「現代語訳 長久保赤水書簡集」から。南溪は現在の福岡県生まれの九州男児。酒豪で些事(昌平坂学問所の前身)でしなやかなこと「ポロ十蔵」(十蔵は通称)と陰口をたたかれたほどの豪傑。赤水さん、20代半ばで南溪に入門します。

鈴木玄淳の私塾も忘れられませんが。玄淳と赤水さんら門人はみな優秀で、地味な心構えが説いてありました。四書五経、漢書、後漢書など中国の史書の熟読をすすめ、「結局、学問は心がけ次第。(修めるには)人生の半分以上はかかる仕事です」と諭し、最後に「書では言い尽くせませんので、お会いしてお話ししましょう」と結ぶのです(長久保赤水頭彰会発行)

「玄淳先生の私塾は渡辺さんちの敷地内にあつたといわれるんです。渡辺さんの先祖は、能筆で知られたまな弟子ですよ」

赤水さんは数え23歳で、またいこのお願を妻にめとります。25歳で長男、27歳で次男が生まれ、学問も家庭生活もますます充実した時期なのです。

赤水さんはいよいよ、地図作りに踏み出します。(フリーライター・岡村青)＝原則木曜の掲載です

## 赤水の手紙

(長男・藤八郎へ) 續長久保赤水書簡現代語訳から抜粋

(前略) 殿様や大炊頭様(目白公)、中山殿(治保の弟。水戸藩附家老中山備前守信敬)などより時々政治についてご質問がある。私の考えをお用いになれることもあり、即ち天理にかなった事もあるのだからと思う。これもまた当然のこと、有り難いことだと思っている。大能の野駒(大能村牧場の放し駒)の問題は解決した。この上にも同じような事が出来れば本望である。例えば、子育ての事(奨励金)。御歳前での貢納する事(歳前でのモミ改めなど問題があった。大豆にかける税金の事。贅沢を禁ずる事。賭博に罰金を払わせる事。寺社からの納入金を止める事。町人から金を借りる事は、無用の事。紙幣(藩札発行)はよろしくない事。いろいろな税金はとらないようにする事。右のことがらは皆、私のためた政策である。これらの事についてみても、私が江戸に居ることは天命と思っっている。だからこのまま江戸の土になろうとも天意(自然の道理)に任せようと思う。意見は無用である。



### ⑥ブレイク!

JR高萩駅前、2012年11月に建てられた長久保赤水(1717-1800)の銅像があり、駅前のランドマークとして乗降客に親しまれています。そこで聞いてみました、赤水さん何者、と。

「江戸時代中期の儒学者で、日本地図をつくったといわれる人なんです」

板倉青哉さん(16)の答えは明快、それくらい赤水さんは人々にすっかり定着しています。なので、「そのような人が高萩にいたことは誇りです」と及川賢信さん(15)がやや自慢げに答えるのも当然です。

じつは赤水さんは農民出身ながら学者に転じ、緯線と方角線の入った日本地図を初めて刊行するという大事業を成し遂げ、一気にブレイクする人でした。

数え52歳に達した赤水さん、まず「改製日本分里図」を完成させます。

「この地図がいわゆる赤

## 大ベストセラーついに完成

水図(改正日本輿地路程全図)の元になる原図です。この後、修正を加えてより信頼性の高いものになってゆくんですが、この原図の完成まで実に約20年も費やしているんですね。

長久保赤水銅像3代目会長の佐川春久さん(70)が現存することになった。1枚だけの手書きの原図が現存することになった。白色顔料を塗り重ね、和紙を貼り合わせて修正した跡が見えます。

赤水さんはこの頃、功績が認められて水戸藩の郷土格に列せられます。でも地図作りはこれらが本番。原図は端緒にすぎません。

1774(安永3)年、58歳の赤水さんは意を決して京都に向かいました。京は約6千。航路、古戦場、都は文化と知識の宝庫。多

彩な人士、文物に接し、そこで得た情報を原図に盛り込み、修正を重ねます。そして5年、ついに「改訂日本輿地路程全図」が出来上がるのです。赤水さんは「天然ガスの出るのが不思議」などと書いています。赤水が旅して見聞きしたことも盛り込んで、これは彼の知識の集大成です。一気に語る佐川さん、興奮するの分かります。赤水図は海賊版や模倣版が次々と出るほどの大ベストセラーになるのです。

ところで、赤水さんは61歳で第6代水戸藩主・徳川治保の侍講(家庭教師)に抜擢されています。高萩駅前の銅像はその姿、農民から藩主の先生になるって、いややなんとも……。

「フリーライター・岡村晋」

「改訂日本輿地路程全図」(2版)の常陸国部分。地名がびっしり＝高萩市歴史民俗資料館蔵

赤水の手紙

(孫の作之丞)「藤八郎の長男」、次男・四郎次、三男・大塚文右衛門へ：続長久保赤水書簡集現代語訳から抜粋)

(前略)私が若い時に借りて、田島へ出る時にも懐へ入れて学問に励んだ。さて、学者も普通の人も、人を知ることが肝要である。善人を知って、師とし友として交際すれば、日々に月々に利益がある。悪い人を近づければ日々利を失う。(略)

私心なく公正に行動する人を君子という。私心がないというのは、自分の心におこる欲望を捨てて仁義の道に随って行動することである。公正とは正直誠実な心を持つ人を愛する事、他人とも親しみ合い、嘘、いつわりを言ひ、不正の道を歩み、不孝不義の怠け者、酒・女・博奕を好む者は我が子、兄弟、そのほか親類といえども遠ざけて親し

んではいけない。(略)とにかく、人を知ること。第一の学問とすべきである。(略)天下の中で正直で律儀の人、親孝行で忠義と真実を守る人を子弟の如くに付き合うように。世の中の人の中に、不義不孝で、酒、女、博奕の三悪を好み、家業をおろそかにする者は悪人である。悪人は天下の罪人であり、そのような人を早く見究めて交わらず遠ざけるようにせよ。他人は勿論、親族であっても油断しないこと。但し、甚だしくこれを憎むと仇で返すこともあるので、強くその非を責めるべきではない。(略)悪い人を見てもそれを鏡として、自らを戒めて行いを正しくし、酒、女、博奕を好まず、家業にだけ精進して、少しでも余力がある時には、書物を読み、古の人を友とすること。世の中にこれほどの楽しみはない。これを天命を楽しむという。

### ⑤世界は広い!

お待たせしました。「赤水さん」は今週から再開します。話は常陸国赤浜村(現高萩市赤浜)の長久保赤水(1717-1800)さん(89)＝高萩市IIが語ります。「とにかく謙虚正直なひとでした。一日の計は朝鳴に在り、一月の計は朝旦(一日)に在り。赤水は、鶏の鳴く声と同時に起床せよ、なければ夕刻に後悔する、という言葉をしめつけていましたから」

自宅前の街道を往來する旅人を呼び止めては土地の名前や街道を聞き、入門した名越南溪のつて(?)で彰考館秘蔵の諸藩発行の地図も模写。天文学の知識も身につけました。

勉強に使った「天経或問」という中国の書物が残っています。ページの端には赤水さんの書き込み。地球とみられる円に「赤道」「緯度」「経度即東西」などと書いています。

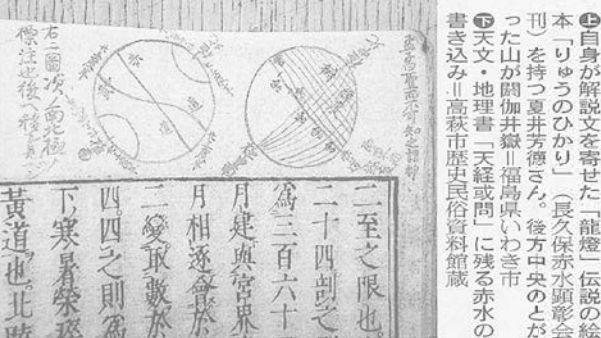
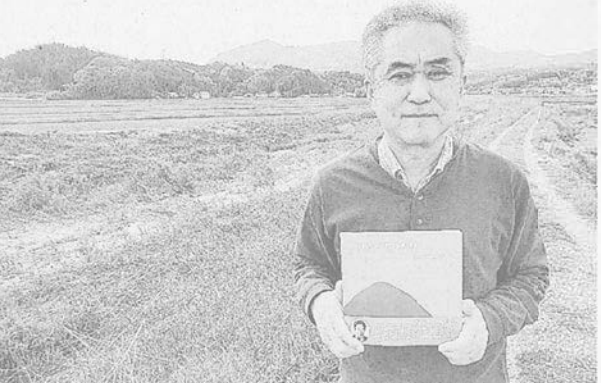
地図は、障子に描き込んでいきました。タテヨコの格子を緯度経度に見立てた

## 好奇心むずむず 異人と「違法」交流

という寸法です。障子が日本地図に早変わり。さぞかし妻のお腹はア然としたに違ひありません。

でも、単に想像で地図を描いたわけではありませぬ。実地検証もしています。44歳の夏、仲間7人で東北、新潟を旅します。彼は磁石を持参し、方位を調べているんです。

福島県の「いわき市春らしの伝承郷」の夏井芳徳館長(60)が教えてくれました。「この旅では赤水の意外な一面が垣間見えます。茨城と福島の県境に近い。茨城の切り通しを抜けると、中は暗く、崖も崩れそうなので怖くなり急ぎ通り過ぎた」とか、『馬を見に行ったらハエとアブの大



自身が解説文を寄せた「龍燈」伝説の絵本「りゅうのひかり」(長久保赤水銅像会刊)を持つ夏井芳徳さん。後方中央のとがった山が関井嶽(福島県いわき市)。

⑤天文・地理書「天経或問」に残る赤水の書き込みII高萩市歴史民俗資料館蔵

二至之限也  
二十四節之  
為三百六十  
月建與宮界  
月相逐命於  
二變取數於  
四四之則爲  
下寒暑榮衰  
黃道也北極

て川をさかのぼる不思議な光「龍燈」を見ようと、いわき市の関井嶽(標高605.5)に登ります。夜に登って実際に見て、翌日の昼にも、「屋に登ったのは発生原理を探ろうとしたようです。その好奇心、学究心たるや相当なものです」

51歳の時には長崎行きチャンスを得ます。近村の漁師がベトナムまで漂流し、水戸藩の役人と迎えに行くのです(自ら志願したという説もあります)。

鎖国時代でも、江戸幕府は長崎でオランダや清(中国)と交易していました。赤水さんの好奇心がむずむずします。外国人との交流

は「違法」を承知で、清国人と漢詩作りで腕比べ、オランダ人とも親しくなり、鳥の羽のペンで書いた横書きの文を初めて見るのです。うーん、世界は広い!赤水さん、地図作りに向けて、力こぶがいっそう大きくなるのです。

「フリーライター・岡村晋」

「原則不揮の掲載です」

長久保赤水と関井嶽の龍燈

夏井芳徳さん(医療創生大学客員教授)(前略)赤水が旅をし、書き残してくれた記述によって、私たちはかつての地域の人々の営みや地域の様子などをぶささ知ることができ、また、それを足掛かりにして、地域の歴史をさらに深く研究することが可能になる。とてもありがたいことだ。しかし、赤水が私にもたらしてくれる学恩は、これだけではない。赤水が書き残した記述を対する赤水の強い思いや真摯な態度が

伝わってくる時がある。「この世の中はどのようにして成り立っているのか?」この問いへの答えを見つけるため、赤水は強い思いを持って、日々、真摯に学び、探究を続けた。学問に対する強い思いを持ち、日々、真摯に学び、探究すること。私はこれらのことも、赤水からしっかりと学び取らなくてはならないと思っている。また、その一方で、赤水が書いた文章を読んでいると、そこにユーモアに満ちた面白味を感じることがある。そのような時、私は赤水という人間が持つ魅力に強く惹き込まれている自分がいることに気づかされる。



# 赤水さん 地図に広がるいきいき人生

## 7外伝

地名をびっしりと書き込み、微に入り、細にわたる「改正日本輿地路程全図」(通称・赤水図)を世に送り出した長久保赤水さん(1717~1801)。さらに進化した第2版が1791(寛政3)年正月に刊行されると、またもや人気に火が付き、どこにも止まりません。版元も売り出しに懸命です。「浦々島々に至る迄大小もろさず地勢方位を正し微細に記す」とキャッチコピーをつけ、購買心をあおるありさま。

「確認しただけでも赤水図は黒一色から7色刷りまでバリエーション豊かなんです。色が多ければ高く、最高は25両。でも色が少ないのは安く、欲しい人に欲しい値段で買えたんです」元東京大大学院教授の馬場章さん(62)が語ります。ベストセラーの陰にマーケティング戦略があるのは、現代と同じですね。

海外の赤水図を調査した馬場章さん。現在はeスポーツの普及に取り組み馬場さん提供



# 海外に「流出」黒船ペリーも愛用?

馬場さんは、鎖国時代に長崎に滞在したドイツ人医師シーボルトが、日本で収集した「シーボルト・コレクション」の研究者。25年前にミュンヘンの博物館で、なんと赤水図に出会ったのです。部屋が薄暗かったからか、色鮮やかな赤水図がぐっと輝いて見えたといいます。

「なぜ赤水図がここに?」シーボルトは日本でさまざまな文物を集めました。帰国準備のさなか、積み荷に幕府禁制の地図が含まれていることが発見され、国外追放になります。この地図が伊能忠敬の通称・伊能図なんです。なぜ伊能図は見つかり、赤水図は持ち出せたのでしょうか?

「思い出ししてください。赤水図は持ち運びに便利

筆を治保から任されるんですね。大日本史といえば黄門さまでおなじみの2代藩主・徳川光圀が始めた大事業。意気に感じないはずがありません。

その後もたびたび、子どもたちから手紙が来たのでしよう。赤水さんはいつにこう書くのです。

「私は(もう)75歳になったのだから、お前たちの意見などに従う必要はない。(隠居を願っているのにも)余計なことである」さらに「菊の塩漬けが足りない」「梅干しの黒焼きを送れ」などと、手紙をさかんに送ります。「(仕事するの)眼の力の薬になるので欲しいのである」その頃の自画像が残って

います。「黒くて太いマユ、獅子っ鼻」。これで73歳かと思わせるほど、イナクトがありますね」長久保陸さん(62)北茨城市はこう語ります。

自画像は陸さんの祖父智保さんが所有していました。が、昨年に他界され、高萩市に寄贈されます。智保さんや陸さんは四郎次の子孫にあたります。

「自画像は額に入れて茶の間の壁にすっとかけてありました。祖父の話では、赤水さんは地図を作るためいろんなところへ旅に出たというんですね。そのせいか、なるほど風格があるなと思って見ていました」赤水さんは81歳でなお、こう書き送ります。

「私が命を惜しむのは『地理志』完成のためだけだ。お殿様の仰せを守り、ご恩に報いるにはただこの地理志にある。それなのに、お前たちは私の気持ちも知らず、(地理志よりも赤浜に戻ってきて欲しいという)のは、親不孝である」自画像の赤水さんは口をへんの字に結び、無精ひげ。執念、恐るべし、です。

(フリーライター・岡村青) 原則木曜の掲載です



赤浜海岸



ささきの浜

# 赤水さん 地図に広がるいきいき人生

## 8隠居は御免

江戸時代の大ベストセラーとなる日本地図(通称・赤水図)を世に送り出した長久保赤水さん(1717~1801)は常陸国赤浜村(現高萩市赤浜)の農民出身ながら勉学に励み、数え61歳で6代水戸藩主・徳川治保の侍講(家庭教師)に大抜擢されたことは前々週(第6回)で少しご紹介しましたね。赤水さんは江戸に呼ばれ、81歳までの約20年を小石川の戸藩邸内の儒者長屋で暮らします。

それはもう、好奇心が刺激されたようですよ。なにしろ赤水図が大坂で刊行された3年後の1783(天

赤水が作製した「地球万国山海輿地全図」高萩市歴史民俗資料館蔵



# 還暦過ぎ 息子に「菊の塩漬け送れ！」

明3)年には「大清広輿図」(いまの中国の地図)、その後「地球万国山海輿地全図」(世界地図)と立て続けに完成させる、旺盛な執筆ぶり。あくなき知的探求とチャレンジ精神には脱帽ものです。

ところが、赤浜村で暮らす長男の藤八郎、次男の四郎次ら子どもたちは父の健康が心配。何しろ還暦を過ぎていきますからね。「おきゅうを200力所した」とか「病氣も快復した」などの手紙がどくどくとおさ

73歳の赤水の自画像



高萩市歴史民俗資料館蔵

「私を命を惜しむのは『地理志』完成のためだけだ。お殿様の仰せを守り、ご恩に報いるにはただこの地理志にある。それなのに、お前たちは私の気持ちも知らず、(地理志よりも赤浜に戻ってきて欲しいという)のは、親不孝である」自画像の赤水さんは口をへんの字に結び、無精ひげ。執念、恐るべし、です。

(フリーライター・岡村青) 原則木曜の掲載です



万葉の道

**赤水の手紙**

(次男・四郎次方へ：續長久保赤水書簡集から抜粋)

(前略) 人間万事塞翁馬ということがある。工夫の仕方であうまいかなくても、却て善い事に成る物である。とにかく、風の吹くままに随って(自然にさかわらず)工夫すべき事である。



# 赤水さん 地図に広がるいきいき人生



9代水戸藩主・徳川齊昭の肖像画

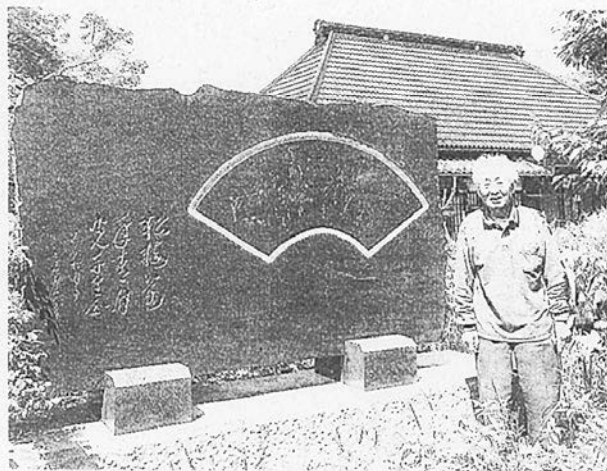
## 9大往生

「殿様から命じられた大日本史の『地理志』を完成させるまでは、絶対に赤浜に帰らん」  
1797(寛政9)年、数え81歳の長久保赤水さんは目の薬になるからと菊をたべ、体にいいからとアワビの腸の塩辛をたべて地理志編纂に執念を燃やしましたが、衰えは隠せません。その年の夏、健康を案じる息子たちの説得にとうとう応じます。

6代水戸藩主・徳川治保の侍講(家庭教師)として江戸に発ったのは61歳でした。それから、実に約20年ぶり。久しく忘れていた故郷・赤浜海岸(高萩市赤浜)の潮風が、赤水さんをホッとさせたことでしょう。  
赤浜に戻った赤水さんは、どんな暮らしをしていたのでしょうか。

「戻ってからも研究に余念がなかったようです。ところが江戸後期の1820年代に家が火事になり、赤水の晩年の資料や江戸か

## 巨星墜つ 齊昭も松陰もしのぶ



徳川齊昭が長久保赤水の子孫に贈った「扇の和歌」を刻んだ碑と、長久保和良さん=高萩市赤浜

ら持ち帰ったものが灰になってしまったんです」  
残念がるのは長久保和良さん(88)。和良さんは赤水さんの長男藤八郎の次男の子孫で、赤水さんの旧宅跡にお住まいです(※旧宅跡には藤八郎の三男の子孫の方もお住まいです。長男の松太郎は早世)。  
火事がなければ赤水さんの晩年を知ることができたのに、実に惜しい。  
けれど火事は彼の没後のこと。赤水さんは1801(享和元)年7月23日、85歳で大往生します。「(葬式は)儉約質素にせよ、棺はあり合わせの板でよい、が測量せずして作製した日

(自分が身にとまとう) 袴は紙でもよい」。厳格な赤水さんは自らの葬式についても遺言で指示しています。彼が遺言を書いたのは、赤浜に戻った81歳の年の暮れです。既に決意の帰郷だったのでしょう。  
実は赤水さんが亡くなり、また香華が絶えない8月3日、偶然にも伊能忠敬(1745~1818)が日本地図作製のため、測量隊を率いて赤浜を通りまわります。彼はごまめに日記をつけていますが、「長赤水ノ出村也」とサラッと書いています。忠敬だって赤水さんが測量せずして作製した日

没後も赤水さんの名声は衰えませんが、6代治保は赤水さんの生前に自宅を訪れていますが、彼の没後も7代治紀、9代齊昭が訪れています。とくに齊昭は自ら筆を執り、扇に一首、「山川を はるばるこえて今日ここに 手綱の涙のたすねてぞくる」との和歌を子孫に贈ったほどでした(8代は赤水宅が火災に遭ったため、訪問を控えたとか)。  
和良さんの自宅の一角に立つ石碑には、その和歌が刻まれています。3人もの藩主が訪れるなど、いかに赤水さんが惜しまれた人であったか分かりますよね。

幕末の思想家吉田松陰(1803~59)も赤水さんが亡くなって約50年後、



測量する伊能忠敬の銅像=北海道福島町豊浜

### 赤水の手紙

(長男・藤八郎へ…) 續長久保赤水書簡集から抜粋

(前略) 身の行いを善にして貪欲なく、陰徳を専らにすべし。下男女に高い手当を与えることは慈悲の行いというものである。天命であるので、いつも損にはならないものである。

浅間山には噴煙が描かれている。(赤水図第2版、寛政3年・1791)

# 赤水さん 地図に広がるいきいき人生



長久保赤水顕彰会の3代目会長、佐川春久さん(70)が説明します。佐川さんは東京・築地生まれ。高萩市役所に勤めて初めて、赤水さんを知ります。「大変な驚きですよ。伊能忠敬の比じゃないんじゃないかって」

## 10また会う日まで

常陸国赤浜村(現高萩市赤浜)の農民出身で幼い頃から勉学に励み、伊能忠敬より42年も早く日本地図(通称・赤水図)を完成させ、水戸藩主の侍講(家庭教師)を務め、水戸藩の歴史書「大日本史」の「地理志」編纂も任された長久保赤水さん(1717~1801)。地理学者であり、儒学者であり、農政学者でもあり、赤水図は江戸時代の大ベストセラーとなつて、忠敬自身や、幕末の思想家吉田松陰が重宝し、黒船艦隊のペリーも使ったふしがあるほどでした。でも、あまり知られていなかったんです。

## 国重文へ! 大河も夢じゃない?



長久保赤水顕彰会の佐川春久さんと黒沢貴子さん(右から) 高萩市のJ.R高萩駅前(文中の写真は上から) 数え81歳の赤水の肖像画 県立図書館蔵、66・70歳の自画像 高萩市歴史民俗資料館蔵、黒沢さんが描いた青年期「生涯学習の先人 長久保赤水」の表紙から

顕彰会は1992年に発足。佐川さんも市の広報広聴係で培ったPRのノウハウを駆使して知名度アップに奮闘してきました。赤水図のレプリカ作製、絵本や伝記漫画、赤水の書簡集の発刊、講演会やイベントの



開催、実行委員会に加わつての銅像建立。そんな顕彰会の皆さんのもに今年3月19日、うれしい知らせが届きます。赤水図をほじめとする資料693点が、国の重要文化財に指定されることが決まったのです!



おいっ子さんが生まれたんです。その可愛さにつられ、赤水さんも可愛くなっちゃいました!

推しながらも思ったそうですよ。私、子育てを間違つたかも。赤水の継母おかんは、赤水さんのしたいことをやらせました。私は娘に、あれしなさい、これしなさいと先回りして言っちゃって。自主性に任せればよかったかなって。いまは、マルチ人間の赤水さんの「頭の中」に迫る新作に挑戦中です。「難しいですけど、頑張ります」一方、佐川さんも次なる秘策を明かします。「そう、NHKの大河ドラマを狙います。赤水さんを教科書にも載せたいし、赤水記念館の設置も今後の課題です」

佐川さんの本領、ますます発揮です。黒沢さんの漫画も、今から楽しみ。それにしても赤水さん、21世紀になっても私たちに夢や憧れを与えてくれます。やっぱり希代のエンターテイナーですよ、赤水さん。(フリーライター・岡村尊) 〓おわり

## 赤水

### 赤水の手紙

(長男・藤八郎へ…) 續長久保赤水書簡集から抜粋  
(欠損) 少しでも余力(虫損)があれば、読書をして見識を高めれば、知恵も明らかになって、感も無くなり、楽しみもまたその中にあり、心気を養えるものである。書を読まない者は、富貴の家に生まれても、愚昧故に、万事に疎く、理に暗く、行いは後悔が多いもので、家を全く持ち難い。学問は、眼前には損があるように見えるが、寸陰(ちよつとの時間)を盗んで書を読むようにしなさい。さて、書は、和漢の軍談、歌書、俳書、醫書等、いずれも便(てずる)に随い、手あたり次第に多く読むべきである。(略) これは『大学』にもある通り、「格物致知、すなわち天下の物に即し、その理を究る」ということである。おおよそでもその理を理解して学問すべし。これを見識が立つという。(略) 『大学』の三綱領(明德を明らかにする。民に親しむ。至善に止まる)を主意とすべし。学問は実に、自ら明らかにすることを、第一の肝要とする。行いは、最高の善に到達し、その状態を常に維持することを基本とする。



国の文化審議会は、「一橋徳川家関係資料」(県立歴史館保管)と「長久保赤水関係資料」(高萩市歴史民俗資料館保管)を新たに重要文化財(美術工芸品)に指定するよう文部科学相に答申した。夏ごろまでに答申通り指定される。

# 国重文へ2件答申

## 一橋徳川家関係資料

一橋徳川家は田安・清水両徳川家とともに御三卿と称され、十一代将軍家斉、十五代慶喜を出した。資料は、一橋徳川家から県に寄贈された文書・記録4017点、書画・典籍224点、器物460点、写真14点で構成されている。

で、水戸藩の天文・地理学者。伊能忠敬の地図がでる42年前の1779年に、日本で初めて緯度をあらわす緯線(横線)と方位を示す方角線(縦線)を記した地図を作製したことで知られる。

一橋徳川家の家格、家政、所領経営、幕政への関与、家の内外における儀礼の実際などをうかがうことができ、江戸時代の政治史、文化史、古文書学を研究する上で価値が高いと評価された。

長久保赤水(1717-1801年)は高萩市出身

## 長久保赤水関係資料

重要文化財に指定される資料は、赤水の複数の子孫の家に伝わった地図・絵図84点、文書・記録279点、典籍274点、書画・器物56点。赤水の学問の内容、交友関係、生涯の業績を考えるのに最もまとまった資料で、江戸時代中後期の文化史、地図史などを研究する上で価値が高いと評価された。



⑤一橋徳川家関係資料「(書) [誠] 徳川慶喜 筆」=県立歴史館提供  
⑥長久保赤水関係資料「改製日本扶桑分里図」=高萩市生涯学習課提供

## 長久保赤水資料・一橋徳川家資料

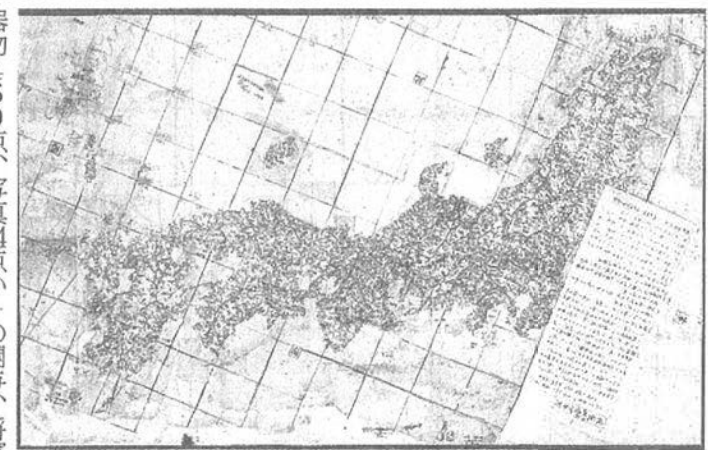
# 国指定重文へ答申

文化審

国の文化審議会は19日、日本で初めて経緯線のある全国地図を完成させた「長久保赤水関係資料」(高萩市、同市歴史民俗資料館保管)と、「一橋徳川家関係資料」(県、県立歴史館保管)を、国指定の重要文化財(美術工芸品)にするよう萩生田光一文部科学相に答申した。夏(7月)までに答申通り指定される。

高萩市出身で江戸時代の学者、長久保赤水(1717-1801)は緯度を記載した正確な日本地図「改正日本輿地路程全図」を完成させた。重要文化財に指定されるのは、赤水の複数の子孫宅に伝来した一括資料で、地図・絵図84点、文書・記録279点、典籍274点、書画・器物56点の計693点。赤水の学問の内容、交友関係、生涯の業績を考える上で最もまとまった資料群で、学術的な価値が高い。

一橋徳川家関係資料は、同家から県に寄贈されたもので、文書・記録4017点、書画・典籍224点、器物460点、写真14点から構成。一橋徳川家の家格や家政、所領経営、幕政への関与、将軍家や大名家との交際など、江戸時代の政治史、文化史、古文書学を研究する上で価値が高いと判断された。



⑤長久保赤水関係資料「改製扶桑分里図」(文化庁提供)⑥一橋徳川家関係資料(書)「誠」徳川慶喜筆(県立歴史館提供)

(成田愛)



### 長久保赤水の書簡集

## 現代語訳3冊目発刊

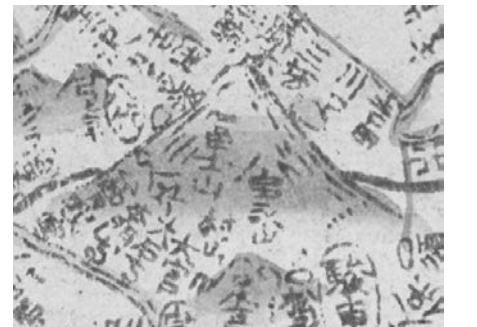
高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717〜1801年）が自身の子どもや学者仲間らとやりとりした手紙などの資料を収めた「続編 長久保赤水書簡集」の現代語訳版が発刊された。赤水の功績を伝える活動に取り組み長久保赤水顕彰会などが漢文の書簡を現代語に訳したもので、佐川春久会長は「家族を思いやる文面などがあふり、人間としての赤水の姿が見える」と話している。書簡集は、同会の横山功副会長が赤水の子孫宅から収集した手紙などをまとめ、2004年に1冊目を発行。12年、17年にそれぞれ続編を



「続編 長久保赤水書簡集」の現代語訳

出し、同顕彰会と高萩郷土史研究会が現代語訳の作業に取り組んでいた。赤水が長男の藤八郎に宛てた手紙では「読書をして見識を高めれば、知恵も明らかになって、惑いも無くなり（中略）心気を養える」と「学問は、眼前には損があるように見えるが、寸陰（ちよつと）の時間を盗んで書を読むようにしなさい」と助言している。赤水は現在の同市赤浜の農家に生まれ、天文学や地理学などを学び、日本で初めて経緯線のある全国地図を1779年に完成。61歳で水戸藩6代藩主治保の侍講に抜てきされた。手紙の中には、水戸学の代表的思想家・藤田幽谷とのやりとりもある。若き日の幽谷は藩の役人や政治に

不満を持ち、早急な改革の必要性を訴える。一方の赤水は治保の代になってから政治は緩やかだが良くなっている」と記している。佐川会長は「思想が過激だった幽谷を赤水がなだめながら育てた師弟関係や、赤水がたくさんの人と付き合っただけで情報ももっていた側面が分かる。ぜひ読んでほしい」と話す。問い合わせは佐川会長 ☎090(1846)6849。（小原瑛平）



富士山（同左上）

### 記者手帳

○太平洋戦争下の日常を描いたアニメ映画「この世界の片隅に」の劇場上映が今月で千日連続になった。公開から2年以上にわたり、毎日上映している劇場「土浦セントラルシネマズ」の寺内龍地社長は「いい作品を皆さんに見ていただきたいと思

### ファンが支える聖地

劇場ロビーには映画のファンが描いたイラストやメッセージがびっしりと展示されており、「聖地」になっている。「ファンの方々の支えがあったからこそ」と感謝。○：県自然環境保全審議会の小菅次男会長は1936年8月15日生まれ。水戸市の社会福祉協議会ボランティアセンターで開かれた「水戸空襲の語り部のお話を聴く会」で「終戦の日は、

私が2度目に生まれた日」と話した。終戦の朝、引きつけを起し意識不明となった。運ばれた病院で夜、目を覚ますと日本は負けていた。「空襲後でも開いていた病院があったから一命を取り留めることができた」とし、「二度と悲惨な戦争がないことを願う」と

○：日本で初めて経緯線のある全国地図を描いた高萩市出身の学者、長久保赤水。地図や鉄道に関する著書を多く手掛けてきた地図研究家の今尾恵介さんは、同市歴史民俗資料館で赤水の資料を閲覧し「日本の地図史にとって非常に貴重」と称賛した。膨大な資料を編集することも旅人からの情報も頼りに地図を完成させた赤水。「一つの地図にぎゅっと情報が詰まっている。知識、コミュニケーションの面でも相当の努力が必要だっただろう」と分析。（瑛）

(2019.8.15)



霧島山には噴煙が描かれている。(赤水図第2版、寛政3年・1791)

## 長久保赤水資料、重文指定

高萩市出身の学者で日本で初めて経緯線のある全国地図「改正日本輿地路程全図（赤水図）」を完成させた長久保赤水（1717〜1801年）の関連資料が19日、国の重要文化財に指定されることが決まった。市民らでつくる長久保赤水顕彰会（佐川春久会長、会員517人）や赤水の子孫から「赤水の偉業を全国に知ってもらおう機会になる」と期待の声が上がった。赤水は現在の高萩市赤浜生まれ。11歳になるまでに祖父母、弟、父母と順に亡くした苦学人だ。ただ教育熱心な継母と、医師の傍ら塾を開いていた鈴木玄淳の影響で学問を追究するようになった。儒学や天文学、地理学などを学び、1779年に赤水図を完成。格段に正確な地形と豊富な地名を記載し、庶民に広く普及

## 顕彰会「偉業知って」地元高萩市喜びに沸く

した。流通などの面で大きな役割を果たしたとみられている。61歳の頃、農民出身ながら水戸藩6代藩主徳川治保に学問を講じる侍講に抜てきされた。同会は1992年に設立。不断の努力を積み重ねた赤水を尊敬し、業績を後世に伝える活動を続けてきた。子孫宅で関連資料が見つかれば、保存・管理のため市に寄贈するよう促し、2012年には高萩駅前銅像を建立。赤水が知人や学者仲間らと交わした書簡集、マンガの発行、赤水図のレプリカ作成などの事業に取り組んできた。関連資料は17年に県指定文化財となり、同会は「国指定」も強く望んでいた。佐川会長は「国指定を真土の土産にと誓っていたので本当に良かった。赤水は世界に誇れる先人の一人。広

く業績を知ってもらい、さらに輪が広がれば」と喜びを語った。直系の子孫の養子で、赤水の墓を守る長久保和良さん(88)は19日、彼岸に合わせ、佐川会長と共に同市赤浜にある墓に手を合わせた。墓には観光客や研究者が見学に訪れることもあるといい、「これからも皆でまにとくとく眺めたいだけ、関心を持ってもらえれば」と目を細めた。（小原瑛平）



水戸前講読官赤水長久保翁碑

長久保赤水の墓前で手を合わせる佐川春久会長、長久保和良さん（左から）＝高萩市赤浜



左から父 善次衛門・実母 阿繁・継母 阿咸





長久保赤水による「改正日本輿地路程全図」の巨大レプリカに見入る来場者＝岐阜市宇佐、県図書館

# 初の日本地図、巨大レプリカで登場 世界の貴重地図 県図書館に一堂

世界各国の貴重な地図を集めた展示会が18日、岐阜市宇佐の県図書館で始まった。7月に東京都内で開かれた国際地図学会議で展示された地図や、江戸時代の地理学者長久保赤水が歴史上初めて完成させた日本地図「改正日本輿地路程全図（赤水図）」の巨大レプリカなど県内初披露の地図が並び、来場者が見入っている。27日まで。

同会議は国際地図学会が2年ごとに開き、国内では39年ぶりの開催だった。展示会では会議に出展された385点のうち約20点を展示した。秋篠宮ご夫妻と長男悠仁さまが閲覧された地図7点、各国の国民性や独自の工夫が見られる海図4点、ヘブライ語で描かれたイスラエルの国地図や南半球が北側に描かれた逆さ世界地図などが並び、来場者が見入っている。27日まで。

同会議組織委員の宇根寛さんは「これだけ貴重な地図が集まる展示会は東京でもそれほどない」、長久保赤水図の縦4・23尺、横6・44尺の巨大レプリカも展示。現在も残る地名や名所、当時噴火していた山々などが詳細に記されており、来場者の目を引いていた。

同会議組織委員の宇根寛さんは「これだけ貴重な地図が集まる展示会は東京でもそれほどない」、長久保赤水図の縦4・23尺、横6・44尺の巨大レプリカも展示。現在も残る地名や名所、当時噴火していた山々などが詳細に記されており、来場者の目を引いていた。

令和1年12月19日 岐阜新聞 Web



## 世界の貴重地図、県図書館に一堂 初の日本地図、巨大レプリカで登場

© 2019年12月19日 08:06 岐阜新聞Web

世界各国の貴重な地図を集めた展示会が18日、岐阜市宇佐の県図書館で始まった。7月に東京都内で開かれた国際地図学会議で展示された地図や、江戸時代の地理学者長久保赤水（せきすい）が歴史上初めて完成させた日本地図「改正日本輿地（よち）路程全図（赤水図）」の巨大レプリカなど県内初披露の地図が並び、来場者が見入っている。27日まで。

岐阜県立図書館に国際地図展展示地図がやってくる！



岐阜県立図書館展示会

2019年12月18日(水)～12月27日(金)

赤水顕彰会の佐川春久会長は「赤水図はぜひ地元の子どもたちに見てもらいたい」と来場を呼び掛けた。（武藤直子）

# 長谷川さんが最優秀 感想文コン



『マンガ 長久保赤水物語』感想文表彰  
最優秀賞を受賞した長谷川庸熙さん（前列左から3人目）ら受賞者と長久保赤水顕彰会の関係者＝高萩市高萩

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水の生涯を描いた「マンガ長久保赤水物語」の感想文コンクールの表彰式が3日、同市高萩の市歴史民俗資料館で行われた。最優秀賞には水戸市の会社員、長谷川庸熙さん（61）の感想文が選ばれ、主催の長久保赤水顕彰会が懸賞金10万円や記念品を贈った。

マンガ本には、同会員の黒沢貴子さん、原康隆さんがそれぞれ赤水の業績や人となりを描いた作品を掲載。全国から15点の感想文が寄せられた。

黒沢さん、原さんも出席して行った式には、長谷川さんのほか優秀賞を受賞した人のうち4人が出席。同会からそれぞれ表彰状と記念品を手渡された。

同会の佐川春久会長は「感想文を載せた本を出版する予定。皆さんの感想が全国津々浦々、人から人に伝わっていくことを期待している」と述べた。長谷川さんは「マンガで赤水の足跡がよく分かり感動した。最優秀に認められ光栄に思う」と話した。

長久保赤水は現在の高萩市赤浜の農家に生まれた。官製地図や地誌などを研究し、1779（安永8）年に日本地図で初めて経緯線を記入した「改正日本輿地路程全図」（赤水図）を完成させた。（小原瑛平）

優秀賞は次の通り。（敬称略）

- ▽優秀賞 田上智（埼玉県戸田市）
- ▽優秀賞 神谷林実（愛知県刈谷市）
- ▽優秀賞 本光代（東京都千代田区）
- ▽優秀賞 西川憲昭（東京都立川市）
- ▽優秀賞 赤塚直久（高萩市）
- ▽優秀賞 立花千恵子（北茨城市）
- ▽優秀賞 山裕史（水戸市）
- ▽優秀賞 陰山祐香（島根県松江市）
- ▽優秀賞 長岡秀樹（高萩市）

令和1年12月17日  
茨城新聞

松山に世界の地図がやってくる！



日本地図学会松山地方大会展示会

2019年11月9日(土)、10日(日)

## デスク日記

12月に入ったばかりの日曜日、同僚記者が大正期の詩人、山村暮鳥の墓参取材していた。水戸市内にある墓を訪れたのは5人だった。40歳で同市で亡くなった。「雲」などの詩を残した。どれほど有名かと聞かれると、文学通でないとは分らないかもしれない。▼同市内には「エロシエンコ氏の像」などの傑作を残した洋画家・中村彝

## 偉人顕彰にはやり廃り

の墓参をする活動もあったが、今はどうなっているのだろうか？ 途切れているならば、偉人や芸術家を顕彰する活動は難しいなど、改めて感じている。▼一方で新たに機運が盛り上がる顕彰活動もある。本格的な日本地図を制作した高萩市生まれの学者・長久保赤水や、常陸大宮市の室町時代の画僧・雪村に対して、出身地を中心に顕彰活動が活発だ。地元紙としては報道を通して支援していくしかない。（報道部・武藤秀明）

(2019.12.17)



# 「赤水図」の変遷紹介

## 高萩市歴史民俗資料館



3倍に拡大した赤水図などが展示されている会場＝高萩市高萩

## 地図62点、3倍拡大図も

日本では初めて経緯線のある全国地図を完成させた高萩市出身の学者、長久保赤水（1717～1801年）が残した地図資料を紹介する「世界を見える化―長久保赤水資料展―」が、同市高萩の市歴史民俗資料館で開かれている。赤水が作成した「改正日本輿地路程全図」（赤水図）などの地図資料62点、赤水図を3倍に引き伸ばした巨大地図などを見ることのできる。9月1日まで。

赤水は30代の頃から地図 たとい、を描き始めたと考えられる。赤水図の初版は1779年。既存の地図や本から情報（安永8年）に完成、91（寛政3）年の二版に記された地理の地理について聞き取り、名は6千カ所、初版の4倍に引き伸ばした。200カ所から大幅に増えている。初版で鎌倉のような形だった北半島、青森県を編集することにたいてい。拡大した赤水図などが展示されている会場＝高萩市高萩

二版では実際の斧のような形になるなど、赤水が地図を作り直していった変遷を理解することが出来る。特別展では版ごとの地図や日本国内の各地について詳細に記した地図、縦横ともに180センチを超える迫力がある清朝時代の中国地図「大清広輿図」、世界地図などを展示。

原寸の3倍（縦253・5センチ、横385・8センチ）に拡大した赤水図は床面に置かれ、靴を脱いで乗りじく眺められる。赤水の功績を伝える活動に取り組み、長久保赤水顕彰会の三浦邦明理事長が寄贈した。三浦邦明理事長は「拡大したことで火山の噴煙や航路が描かれていることも分かる。子どもたちにも夏休みの学習のお供にしてもらえたら」と話す。

同市生涯学習課の大崎真未課長は「地図に特化した展示とした。現代の地図と赤水図を比べ、自分が知っている場所を見れば、どんなたても楽しんでいただけたら」と話している。

平日は午前9時半～午後5時50分（土日祝日は同5時）まで。開館。無料。月曜休館。問い合わせは同館☎0293（2）7220。（小原瑛平）

## 赤水への理解深める

### 県内外から ゆかりの地、散策

#### 都内



高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717～1801年）ゆかりの地を巡る「全国赤水ワオーク―東京大会2019」が31日、都内で開かれた。県内外から参加した約150人が約10時間のコースを散策しながら、赤水の功績に思いをはせた。

長久保赤水顕彰会（佐川春久会長）主催で、東京開催は2回目。佐川会長は出発式で、「県内外の人に赤水の功績や住んでいた所を知ってもらいたい」とあいさつした。

参加者は赤水関係の

資料などが展示されている日比谷公園内の領土・主権展示館で、赤水が作成した、経緯線を入れた日本最初の日本地図「改正日本輿地路程全図」などを見学した。赤水は61歳で水戸藩6代藩主・徳川治保に学問を講じる「侍講」に抜擢された。江戸小石川の水戸藩邸で約20年生活。参加者は皇居から水戸藩上屋敷があった小石川後楽園（東京都文京区）とその周辺、同中屋敷があった東京大農学部（同）などを散策し、赤水への理解を深めた。

昨年に続いて参加した龍ヶ崎水戸町、無職、藤田照美さん（69）は「ウォーキングを通じて赤水のことを楽しく学べて良かった」と笑顔を見せた。（高岡健作）



長久保赤水や地図について佐川春久さん（中央）から解説を受ける「はまなす会」の参加者＝高萩市安良川

## 高齢者12人、赤水を学ぶ

### 高萩 佐川顕彰会長講師に

高萩市出身の学者で、日本では初めて経緯線のある全国地図を完成させた長久保赤水についての勉強会が、同市安良川の駒形集会所で行われた。同地区のコミュニティセンター「はまなす会」の活動の一環で、近くに住む高齢者12人が参加した。

長久保赤水顕彰会の佐川春久会長が講師を務め、地図の特徴や赤水がどのように編集したかを解説。顕彰会で作成した原寸大レプリカを配布し、販売・配布したことで、日本地図学会の研究者などから学術的な意見を得られたといった、最

近の赤水研究の動向を説明した。

はまなす会は地域の高齢者が集まる場として、2017年から活動。他地域のコミュニティセンターは手芸など趣味的な活動をすることが多い中、昨年からの地域の歴史について勉強会を開いているという。

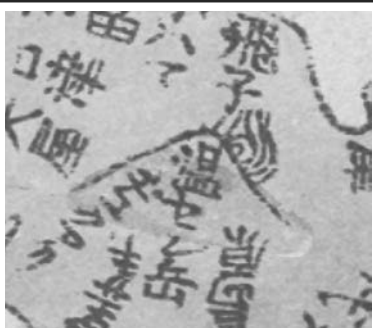
参加した男性（70）は「赤水が地図を作ったことは子どもの頃から知っていたが、詳しくは分かっていなかった。正確な地図を作っていたと改めて知ることができた」と話した。

（小原瑛平）

## 赤水の手紙

（藤八郎・四郎次・文右衛門・おたけへ… 続長久保赤水書簡集から抜粋）

上様（第六代藩主治保）にも宍戸侯にも、御学問が次第に増し進まれて、もう漢本を簡単に御読みになされている。御理解も明察敏捷（すばやいこと）で、中々、私が御教示する処もないので、功成り名遂げて退く所と極まったけれども、上様のお考えで、私は、御相手に成っているので、五、三年の中に御学問が増し進まれる様に、宍戸侯も共にお考えになられているので、たとえ老耆（おいぼれること）致しても、忠勤の功も有り、なお又老人（赤水）は、手離したくないとの事、私に直々に仰せられた事なので、此上しくじり申したとしても逃れる事は、私の知謀（ちまう）（巧み）なはかりごと）ではとても不可能である。



雲仙普賢岳には噴煙が描かれている。

（赤水図第2版、寛政3年・1791）

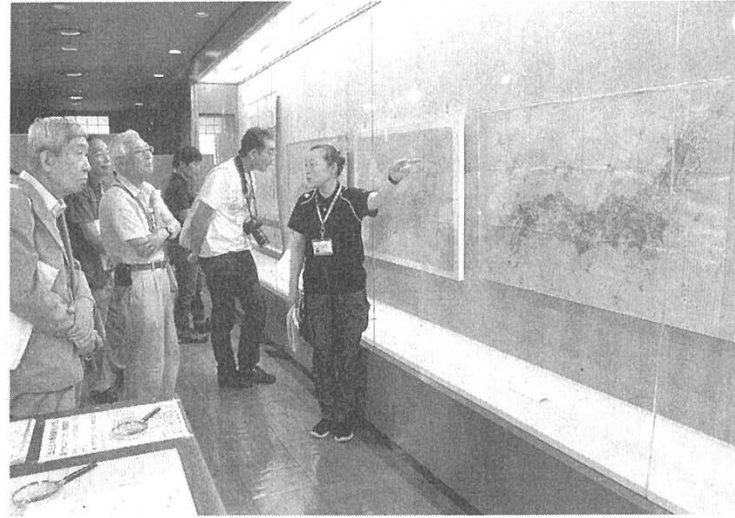


# 赤水の資料、史跡見学

## 地図研究者 高萩の高精度たたえる

日本で初めて経緯線のある全国地図を完成させた高萩市出身の学者、長久保赤水（1717～1801年）関連の資料や史跡を見学しようとして、国内外の地図研究者12人が21日、同市を訪れた。赤水が作成した「改正日本輿地路程全図」（赤水図）や、完成に至るまでの過程で残した資料に目を通し、その価値について議論していた。

15～20日、国際地図学協会の「国際地図学協会」の研修ツアーの一コースとして設定された同市ツアー「国際地図学協会」に出席して設定された同市ツアー



長久保赤水の地図を興味深そうに見つめる研究者たち＝高萩市高萩

に参加した。

同市高萩の市歴史民俗資料館では、赤水図の版ごとの違いや完成に至るまでの調査・編集の内容などについて、赤水顕彰会の佐川春久会長や同市生涯学習課の大崎真未課長らから説明を受けた。

研究者たちは一般には非公開の資料も閲覧し、現代の地図と照らし合わせるなどして興味深そうに見入った。



（小原瑛平）

高萩

地図研究家の今尾恵介さんは「赤水図は初めて緯度が入った全国地図で、日本の地図史にとって非常に貴重。情報が少なく移動速度も遅かった時代にこれだけのものを作ったのは、ものすごい好奇心と努力があったのだらう」とたたえた。

スロバキアから訪れたヤン・フェラネツさんは「赤水がどういっことをやってきたのか想像が膨らんだ。実際に現地に来て、見たり聞いたりすることが大切だと改めて感じた」と話した。

日本地図学会の森田喬会長は「赤水が地図の形を改訂していった流れや、資料同士の関連性などを分かりやすく見せることが必要。その意味でぜひ資料全体をデジタル化し、より広く発信できるようにしてほしい」と提案した。

# 江戸期日本図、西洋で関心

## 古河で 赤水図や泉石資料 特別展

古河市中央町3丁目の古河歴史博物館で特別展「鎖国時代 海を渡った日本図」が開かれている。古河藩家老、鷹見泉石（1785～1858年）の所有品や、国内外から借り受けた貴重な資料など約60点を展示。国外に伝わった江戸期の日本地図やその変化の過程から、未知の世界だった日本や極東に対する当時の西洋人の高い関心と知的好奇心がうかがえる。会期は9月1日まで。

今展は江戸期に発行された「地理学者、長久保赤水（1717～1801年）の改正日本図や、高萩市出身の「717～1801年」の改



古河歴史博物館の企画展に展示された改正日本輿地路程全図を見学する長久保赤水顕彰会の会員たち＝古河市中央町

正日本輿地路程全図」（赤水図）が海外に与えた影響についての最新の研究成果を、2会場12コーナーに分けて紹介。15日から都内で開かれている国際地図学会のツアー対象にも選ばれた。

## 「赤水の偉業再確認」 高萩の顕彰会 展示見学

高萩の顕彰会 展示見学

高萩市出身の地理学者、長久保赤水の功績を伝える活動に取り組む同市の「長久保赤水顕彰会」（佐川春久会長）が14日、古河市中央町3丁目の古河歴史博物館を訪れた。

展示された「改正輿地路程全図」（赤水図）や赤水の関連資料など、開催中の企画展を見学し、国内外に影響を与えた赤水の偉業を再確認した。

顕彰会は1992年に発足し、会員は407人。経緯線を記入した最初の日本地図を完成させた赤水の研究とともに、ゆかりの地を巡るウオーク大会、2017年の赤水生誕300年を記念した漫画の発行、ホームページで国内外に向けた業績発信などに精力的に取り組んでいる。



古河市の特別展を見学

「2会場12コーナー」に分けて紹介。15日から都内で開かれている国際地図学会のツアー対象にも選ばれた。また、これらの研究を取

第1会場では、大航海時代の航海図から赤水最晩年の改正日本輿地路程全図、18世紀に欧州探検船の測量によって作製された日本列島の図までを展示。ロシアのレザノフが日本航路までの経路を示した図や資料もあり、赤水図が海外に流出した過程などを推測することができると紹介した。

同館学芸員の永用俊彦さんは「17～19世紀にかけて、国内では一部の人のみならず、深く研究されていたことを知ってもらえれば」と話した。

## 赤水の手紙

（藤八郎・四郎次・文右衛門・おたけへ）  
… 續長久保赤水書簡集から抜粋

一 この世の中の楽しみは、書を読むにありませぬ。しかし、書を読んでも理解出来なければ、楽しみは少ない。楽しまなければ倦怠（怠け怠ること）怠慢（怠り）し、終にはやめてしまふ。独学孤陋（たつた一人て学ぶ）の者は、同類がなくてはならない。字彙、五車韻瑞、氏族排韻、円機活法、事類全書、皆、常にいつも朝夕左右に置く。右の四書があれば、即ち、是れ良い師友である。随分、独学も可能である。

## 赤水の手紙

（藤八郎・四郎次・文右衛門・おたけへ）  
… 續長久保赤水書簡集から抜粋

（欠損）吉は必ずしも吉ではない、凶も必ずしも凶ではない事を全篇に論じている。一部の大意は、皆、人間万事塞翁が馬であるという事だ。私も先達でも申してやった通り、田舎に帰り安楽に生活する事を願ったけれど叶わなかった。此度、別紙の通りに仰せ出された。（略）全快致したので、上様も甚だ御悦喜遊ばされたので、此度、家格、禄高ともに御増し下された。元来、願わず望まずの事であったが、是また自然の天命ともいふべきか、是非無き事なので、避けるべき偽りの手段もない。兎角、何事も塞翁が馬である。無理に引き退いて、安楽を好む事も出来かねる。たとへ、江戸の土に成ろうとも、是非無き事である。求めずする事でないのは、天命と思つて、諦める様に、皆々へ申し聞かせなさい。





現在の青森県や岩手県、秋田県が記された地図の下図。「津軽南部改正図」の文字が見える



日本で初めて経緯線のある全国地図を完成させた高萩市出身の学者、長久保赤水(1717~1801年)

### 高萩の子孫宅 地図情報更新の跡

# 赤水資料新たに24点

の新発見を含む資料24点が、同市内の子孫宅で見つかった。新たな発見は「津軽南部改正図」などと書かれた地図の下図1枚で、下北半島の形を修正するなど赤水が地図情報の更新に取り組んだ跡が見て取れる。赤水顕彰会の佐川春久会長は「赤水が細かい作業を繰り返し、地図を仕上げた経緯が分かり、貴重な発見」と話す。子孫宅で6月13日に見つ

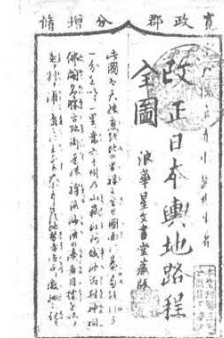
長久保赤水 現在の高萩市赤浜の農家に生まれた。日本各地を旅しながら官製地図や地誌などを研究し、1779(安永8)年に「改正日本輿地路程全図」(赤水図)の初版を完成させた。赤水図は日本地図で初めて経緯線と緯度の数値を記載。地図作製で歴史的に有名な伊能忠敬より42年早く、江戸時代は一般庶民も赤水図を日常的に使っていたとい

かったのは、地図の下図のほか、伊勢から京都までの地名など地図情報を文字に起こした文書、知人からの書簡、子孫に残した遺墨など。市が以前一度預かって記録を取り、子孫宅に返却した後所在が分からなくなっていたものもあった。「津軽南部改正図」と題した地図の下図には、現在の青森県や秋田県、岩手県を記載。商品として流通した赤水の「改正日本輿地路程全図」(赤水図)は、初版では青森県北東部の下北半島が鎌のような形だった。佐川会長は「赤水の細かい分析や技術が分かる。赤水図の価値の裏付けになり、この資料が出たのはうれしい」と話した。同市高萩の市歴史民俗資料館は13日から赤水に関する企画展を開催予定で、今回見つかった資料も展示する。(小原瑛平)



## 吉田松陰も絶賛！伊能忠敬が測量に携帯 長久保赤水の赤水図 (1717~1801年)

令和元年記念『改正日本輿地路程全図』原寸大レプリカ(複製図) 1,000円(税別)で販売中!



7月13日(土)から海外の研究者も訪れる「長久保赤水資料」特別展が始まります。高萩市歴史民俗資料館では、7月13日(金)から9月1日(日)までの日程で「世界を見る化長久保赤水資料展」を開催します。これは、今月の7月15日(月)から20日(土)まで、東京都内で開催される国際地図学会議(海外50か国と国内からの研究者約700人が参加予定)に合わせて開催するものです。海外の研究者などのお土産品として、原寸大レプリカ(複製図)を作成しました。その会議終了後の7月21日(日)から22日(月)の1泊2日の日程

で、国際地図学会議の海外・国内からの研究者などのツアーが、高萩市歴史民俗資料館の「長久保赤水資料」の視察研修に訪れる予定です。この海外からの研究者などのお土産品として、今回、『改正日本輿地路程全図』の原寸大レプリカ(複製図)を3千部の限定で作成しました。高萩市歴史民俗資料館や高萩駅前観光案内所、教科書を取り扱っている県内の書店などで、一般の方にも好評販売中です。

◆発行年月日 令和元年5月1日  
◆制作発行者 長久保赤水顕彰会  
問合せ 長久保赤水顕彰会事務局  
〒318-0103 高萩市大能341 佐川 春久 携帯:090-1846-6849  
Eメール:haruhisasagawa@yahoo.co.jp http://nagakubosekuisui.org/



全国赤水ウォーク! 第2回東京大会 2019



# 長久保赤水の資料、市に寄贈

## 高萩 顕彰会「文化財目指したい」

江戸時代中期の天文・地理学者で、高萩市出身の長久保赤水（1717～1801）。その功績の伝承活動をしている顕彰会（佐川春久会長）が、同市に地図製作の際の資料など、関係資料229点を寄贈した。

赤水は、伊能忠敬の地図ができる42年前の1779年、経線と緯線を日本で初めて記した地図を完成させた。7月に都内で開催された国際地図学会議に参加した研究者が、視察、研修のため、市歴史民俗資料館の「長久保赤水資料群」を訪れる予定だという。

寄贈式は先月25日であり、佐川会長が「偉業を広く知らしめるため、資料を一本化して市の保有とし、維持、管理をしてもらいたい」と話した。

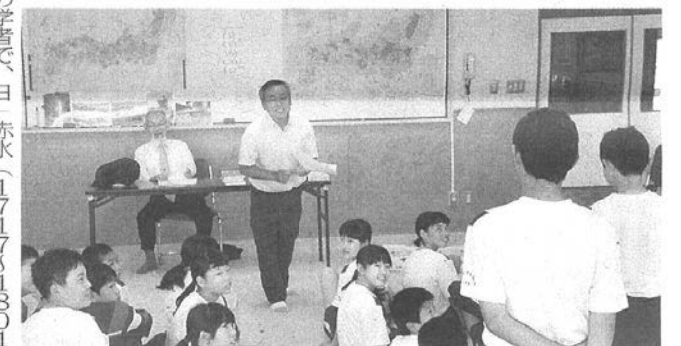
大部長規市長は「業績を文化財にするためには、なぜこの地図が素晴らしいのかを世界に発信していかなければならない」と話した。



大部長規市長（中央）に関係資料の目録を手渡した長久保赤水顕彰会のメンバー＝高萩市役所

# 赤水の業績、人間像知って

## 高萩 顕彰会が「子ども教室」



高萩市出身の学者で、日本で初めて経緯線のある全国地図を完成させた長久保赤水（1717～1801年）の業績や人間像を地元の子どもたちに知ってもらうと、特別授業「赤水・子ども教室」が25日、同市高萩の市立秋山中学校（岡部晃美校長）で行われた。赤水顕彰会顧問の長久保源蔵さん（88）と理事の石孝弘さん（65）が講師を務めた。

同会が子ども向けに赤水についての授業を行うのは初めての試み。同校の1年生49人が話を聞いた。

赤水について長年研究を重ね、複数の著作もある源蔵さんは、赤水が幼い頃に両親や弟を亡くしたことや、14歳で塾に通い始め勉学にいそしんだことなどを解説した。

石さんは「赤水が日本地図を作り始めたのは35歳ごろだが、何年かかって完成させたでしょうか」とクイズ形式で生徒たちに考えさせるなどして、赤水の業績を紹介した。

源蔵さんは「赤水は皆さんのように優秀な頭を持ち、そしてすごい努力家・読書家だった。皆さんも本を読んで勉強してほしい」と生徒たちに語り掛けた。

富田美咲さん（12）は「赤水の地図は内陸が詳しく書かれていることが分かった」と、金子紗也さん（12）は「赤水を見習って勉強を頑張りたい」とそれぞれ話していた。

「クロスアイ」HPに動画

# 赤水資料229点を寄贈

## 顕彰会、高萩市に



長久保赤水の関係資料を寄贈した顕彰会の佐川春久会長（右から4人目）と目録を受け取った大部長規高萩市長（同5人目）＝同市役所

高萩市出身の学者で、日本で初めて経緯線のある全国地図を完成させた長久保赤水（1717～1801年）の功績を伝えている赤水顕彰会（佐川春久会長）は、同会が保有する赤水の関係資料229点を市に寄贈した。

寄贈したのは地図やその

所蔵資料は549点（58・4％）となった。顕彰会は資料の国重要文化財指定を目指している。

寄贈式は6月25日、同市役所で行われ、同会からは佐川会長ら8人が出席。大部長規市長に目録を贈呈した。佐川会長は「資料の他の所有者が、われわれに

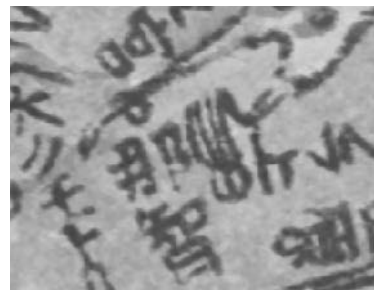
続いて市に寄贈してもらえればありがたい」と話した。

大部長規市長は「寄贈された品々は市歴史民俗資料館に展示するので、多くの人に見てもらいたい。市としても、この地図の素晴らしさを発信していく」と述べた。

（小原瑛平）



全国赤水ウォーク！第2回東京大会 2019



那智の滝が描かれている。（赤水図第2版、寛政3年・1791）

### 赤水の手紙

（長男・藤八郎、次男・四郎次へ）  
 …… 續長久保赤水書簡集から抜粋

（前略）（殿様が）近年にも御入国にもなられば、兄弟共にお目見え下される事になるであろうから、そのように心得て常に士道を棄せず、卑しい行為などなきように慎むようになさい。

悪く心得て、武士は農業しないものと思つては、甚だ宜しくない。舜の口にも諸葛孔明未□□そのほか、名賢、君子も官禄を得ないうちは鋤鋤を取って耕していた。士道に叶っている事である。



# 日本初の全国地図PR

## 高萩の原寸大レプリカ発行 赤水顕彰会



高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717〜1801年）が日本で初めて全国地図を作製した業績をPRしようと、長久保赤水顕彰会（佐川春久会長）は、地図の原寸大レプリカを発行した。江戸時代、日常的に使われていた地図でもあり、歴史ファ...

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717〜1801年）が日本で初めて全国地図を作製した業績をPRしようと、長久保赤水顕彰会（佐川春久会長）は、地図の原寸大レプリカを発行した。江戸時代、日常的に使われていた地図でもあり、歴史ファ...

万6千分の1の縮図。国境や関所、城下町、名所など10種類の記号が使われている。大きさは縦84・6センチ、横128・8センチ。10回折りし、江戸時代と同じデザインのものし袋に入れて販売する。価格は千円（税抜き）。

「赤水図」の原寸大レプリカをPRする長久保赤水顕彰会のメンバー＝高萩市大能

「ついでに話せば」と話している。同市高萩の市歴史民俗資料館で販売するほか、郵送でも対応する。購入の申し込み・問い合わせは佐川会長（090-1846）6849、または同会ホームページ nagakuboeki's blog



（小原瑛平）クロスアイHPに動画

### 赤水の手紙

（藤八郎・四郎次・作之允・大塚文右衛門へ…）  
（前略）（藩主からの）地理志編纂の命令（「大日本地理志」の編纂）、これが無ければ、宋の宗炳のように、五岳、名山を遊歴し、牛に乗り、その死ぬ場所もわからないようにと願っているけれども、地理志編纂の命令は、古今天地のあいだ大変珍しく名誉なことであるので、遠遊はしない。  
一 私の地理志には六十か国ある。平均一年で、五国ずつ出来るので、これ以後、十年はかかるであろう。八十八歳まで存命であれば成就できるであろう。たとへ立ち居が不自由に成っても、目さへ的であれば、この場所、五十軒（水戸藩邸の小石川上屋敷にあった儒者長屋。）を去る訳にはいかない。



鳴門の渦潮が描かれている。（赤水図第2版、寛政3年・1791）

# 赤水の偉業思いはせ

## 高萩・北茨城 70人、ゆかりの地歩く

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717〜1801年）のゆかりの地を巡るウォーキング会「全国赤水ウォーク」が23日、同市や北茨城市を通る約10キロのコースで行われた。市内外から集まった約70人の参加者は赤水の旧宅や墓などを見て回り、赤水の偉業に思いをはせていた。

赤水は現在の高萩市の農家に生まれ、儒学や天文学、地理学などを学んだ。1779（安永8）年、経緯線を記入した国内初の日本地図「改正日本輿地略全図」の初版を完成し



参加者の高萩市下手綱、会社員、佐藤信さん（67）は「文化の史跡を丁寧に残して後世に残していきたい」と話していた。（小原瑛平）



阿蘇山には噴煙が描かれている。（赤水図第2版、寛政3年・1791）

### 赤水の手紙

（長男・藤八郎、次男・四郎次方へ…）  
（前略）まず、お前たち兄弟が心を合わせよく話し合い、赤浜村や矢指村、栗野村の三村の内だけでも子を間引かせないように心得るべし。今からは妊婦を見かけたならば、そのお腹の子はどうなっているかといつも心にかけ、その主の本心も臆き取り、産む気がないようであれば、意見をして、他からも中人（ある程度力のある人）からも教訓して、是非とも子を産ませるべし。まず、しばらくの間の育児料として金や穀物、少々なりとも力を合わせて援助して、救いあげるようにすべし。もつとも費用もかかり、自分の財産が減ってしまうだろうが、その事で少しの力が衰えても、かねてからの願いであるので、少しも厭がってはいけない。（略）近年の内に「上様（第六代藩主治保）が、お入国（水戸に帰る）なされる。その時まで、その方たち兄弟の合力、世話で、不育の者を育てさせた事、五人も十人も帳面に書き記し置くようにして、私に見せなさい。金子の十両、二十両と費用がかかっても構わない。金子が出来そうもなければ、私の隠居免の田畑の内、一か所宛も売り払ってでもその用立てたいものだ。必ず今日から心がけ（田畑を売っても）右の仁慈を施しなさい。



# 赤水の偉業 思いはせ

## 高萩 ゆかりの地10キロ散策



J R高萩駅前での赤水像の前で説明を受ける参加者＝高萩市高萩

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717～1801年）ゆかりの地を巡るウォーキング大会「全国赤水ウォーク」が11月25日に開催され、市内外から約100人が参加した。秋空の下、参加者はウォーキングを楽しみながら、赤水の偉業に思いをはせていた。

市内の赤水ゆかりの地を中心とした約10キロのコースを設定。赤水生誕地や赤水の墓などを巡り、1852（嘉永5）年1月、吉田松陰が同市下手綱の阿久津彦五郎（璞齋）方を訪ねた折、松陰は彦五郎と共に赤水の墓を参つて東北地方に旅立ったというエピソードの地などを訪ねた。

古河市のウォーキングの会「悠歩の会」は12人で参加。佐藤邦彦会長は「歴史と一緒に歩くのは楽しい。景色だけでなく、地元の魅力を感じられる」と元気に歩いた。

赤水は現在の高萩市赤浜の農家に生まれ、儒学や天文学、地理学を学び、1779（安永8）年に経緯線を記入した日本最初の日本地図「改正日本輿地路程全図」を完成。61歳で水戸藩6代藩主・徳川治保に学問を講じる侍講に抜てきされ、江戸小石川の水戸藩邸で97年まで暮らし、1801年に没した。（飯田勉）

平成30年10月25日 茨城新聞

赤水ゆかりの地歩くイベント参加者募集  
高萩、来月25日

高萩市出身で近代地理学の祖といわれる長久保赤水（1717～1801年）ゆかりの地を巡る「全国赤水ウォーク」2018秋

コース」が11月25日に開催される。長久保赤水顕彰会など3団体が主催で、参加者を募集している。

同ウォークは、市内の赤水ゆかりの地を中心とした約10キロのコースを設定。1852（嘉永5）年1月、吉田松陰が同市下手綱の阿久津彦五郎（璞齋）方を訪ねた折、彦五郎が尊敬する赤水の話をし、松陰は彦五郎と共に赤水の墓を参つて東北地方に旅立ったというエピソードの地もコースに含まれる。

当日は高萩市役所午前10時集合。市歴史民俗資料館に赤水像のあるJR高萩駅―松岡城址―市立松岡小学校（就待館）―鹿島神社―赤水生誕地―赤水の墓―赤水旧宅―北茨城市のJR南中郷駅（午後3時ごろ）がゴール。当日受け付けで、小雨決行。参加費無料。問い合わせは高萩ウォーキングクラブ・間下 0293（22）4809。

平成30年11月20日 読売新聞

長久保赤水ゆかり高萩巡るイベント 25日

江戸時代の地理学者・長久保赤水（1717～1801年）ゆかりの地を巡る「全国赤水ウォーク」2018秋コース」が25日に開催される。長久保赤水顕彰会など3団体の主催で、参加者を募集している。

高萩市内を中心とした約10キロのコースで、1852（嘉永5）年に吉田松陰が知人と一緒に赤水の墓に参つてから東北に旅立ったというエピソードが残る地もコースに含まれる。

当日は午前10時に高萩市役所に集合し、市歴史民俗資料館、赤水像のあるJR高萩駅、松岡城址、赤水生誕地、赤水の墓、赤水旧宅などを回り、午後3時頃に北茨城市のJR南中郷駅にゴールする。

当日受け付けで、小雨決行。参加費無料。問い合わせは、高萩ウォーキングクラブの間下彰さん（0293・22・4809）。

# マンガ長久保赤水感想文 最優秀賞に田伏さん

高萩

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水の生涯を描いた本「マンガ長久保赤水の生涯」の感想文の表彰式が3日、同市高萩の市立図書館で開かれた。

同本は昨年10月に発行され、懸賞金10万円の感想文を全国から募集。最優秀作品には大阪市の不動産賃貸業、田伏幸男さん（66）の「晩年の赤水の生き方に

最優秀作品の田伏幸男さんに表彰状などが贈られた。高萩市高萩



高萩

共感している」が選ばれた。赤水の功績を研究する長久保赤水顕彰会（佐川春久会長、会員約409人）が赤水生誕300年を記念し、「業績を幅広い世代に伝える方法」として漫画で発行。全国から22点が寄せられた。

式で佐川会長は「県外からの応募が多かった。これを機に赤水の存在や功績を広くPRすることに協力してほしい」と呼び掛け、受賞者に表彰状と記念品などを手渡した。

田伏さんは「私利私欲を捨て、公のために尽くす清貧な生き方に強く引かれた。赤水には遠く及ばないが、その背中を見つめて自分のできることに精進したい」と話した。

赤水は農家に生まれ、儒

学や天文学、地理学などを学び、1779年に経緯線を記入した日本最初の日本地図「改正日本輿地路程全図」を完成させた。61歳で水戸藩6代藩主徳川治保に学問を講じる侍講に抜てきされ、江戸小石川の水戸藩邸で97年まで暮らし、1801年に没した。

（飯田勉）



取材を受ける田伏幸男さん（左）



# 赤水ゆかりの地歩く

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717～1801年）の東京都内でのゆかりの地を巡る「全国赤水ウォーク」東京大会2018が、29日に初めて開催される。主催の長久保赤水顕彰会とNPO法人茨城県ウォーキング協会では、ゆかりの地を巡ることで「赤水の業績に思いをはせてほしい」と参加を呼び掛けている。

集合場所は東京・日比谷公園か、もめの広場（午前9時半～同10時）で、同10時半に出発。市政会館内の「領土・主権展示館」の赤水資料を閲覧の後、皇居（江戸城）や小石川後楽園（水戸藩上屋敷）、東京大学農学部（同中屋敷）までの約8キロのコース。さらに隅田公園（同下屋敷）まで足を延ばすと約12キロになる。

赤水は現在の同市赤浜の農家に



全国赤水ウォーク！第1回東京大会2018



全国赤水ウォーク！第1回東京大会2018

## 29日 参加100人を募集

生まれ、儒学や天文学、地理学を学び、1779（安永8）年に経緯線を記入した日本最初の日本地図「改正日本輿地路程全図」を完成。61歳で水戸藩6代藩主・徳川治保に学問を講じる侍講に抜てきされ、江戸小石川の水戸藩邸で97年まで暮らし、1801年に没した。

小雨決行、弁当持参。募集人員100人で、先着順。参加費300円。申し込みは事前にはがきで、牛久市田宮町836の20（〒300-0123）、岡田直久宛で。

### 「あかみず」ではなく「せきすい」と読む

2018.10.17  
「あかみず」ではなく「せきすい」と読むでせうねー▼江戸時代に活躍した高萩市出身の地理学者、長久保赤水（1717～1801年）の都内での足跡をたどるウォーク大会が先月、水戸徳川家の江戸上屋敷跡である小石川後楽園（文京区）などを巡るコースで行われた。小雨の中、県内外の約1300人が参加し関心の高さをうかがわせたが、赤水を知らなかったという参加者もいた▼農家に生まれた赤水は少年時代から学問を志し、水戸藩主に仕える学者として活躍した。また、経緯線が入った日本地図を20年かけて完成させ、江戸中期、一般にも広く普及した▼現在、江戸時代の地図は伊能忠敬がよく知られている。一方、「伊能図」の40年以上前に地図を世に送り出した赤水の功績は、県内でも周知されているとは言い難い▼大会を開いた長久保赤水顕彰会（佐川春久会長）は1992年から活動。昨年の生誕300年には式典や生誕地などを巡るウォーク大会などの記念事業を開いた。さらに、竹島問題で「赤水図」が注目されたことから、今年には都内での展示会、そしてウォーク大会と活動の範囲を広げている▼マンガ「長久保赤水物語」も発行した。分かりやすく足跡をたどるコースが好評。

# 赤水の功績思いはせ

## 都内でゆかりの地8キロ散策

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717～1801年）の東京都内でのゆかりの地を巡る「全国赤水ウォーク」東京大会2018が29日初めて開かれ、県内外から参加した約1300人が都内の約8キロのコースを散策しながら、赤水の功績に思いをはせ理解を深めた。長久保赤水顕彰会（佐川春久会長）主催。

参加者は始めに、赤水関係の資料などが展示された「改正日比谷公園の領土・主権展示館」を訪れ、赤水が作



領土・主権展示館の担当者から長久保赤水関係資料についての説明を聞く参加者＝東京・日比谷公園の同館

赤水は61歳で水戸藩6代藩主・徳川治保に学問を講じる「侍講」に抜てきされ、江戸小石川の水戸藩邸でも生活したことから、参加者はその後、皇居（江戸城）から水戸藩上屋敷があった小石川後楽園（東京都文京区）、同藩中屋敷があった東京大農学部（同）までを散策し、赤水の足跡をたどった。

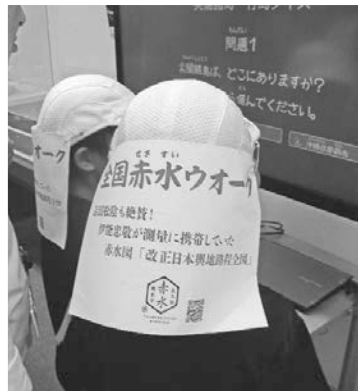
牛久市から参加した鈴木広志さん（70）は「赤水はほとんど知らなかったのですが、勉強になった。今回のようなイベントをもっと開いてほしい」と話した。

佐川会長は「多くの人に赤水を知ってもらえた。これからさまざまなイベントを通して赤水の業績をPRしていきたい」と意気込んだ。（高岡健作）

## 全国赤水ウォーク！第2回東京大会2019



## 全国赤水ウォーク！第2回東京大会2019

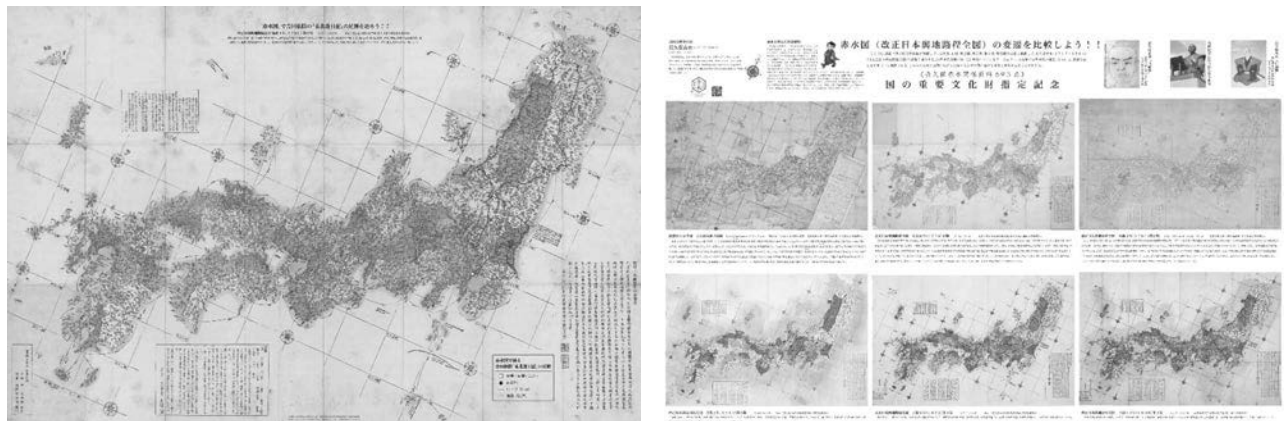


### 赤水の手紙

（藤八郎・作之允・四郎次・文右衛門・源之丞へ：）  
（前略）子孫兄弟が多く繁昌し楽しく合して生活し、私の讀つた書物でも会談（二人以上の人が集まって読書しあうこと）して楽しむように願っている。（略）蓄金は、ただ豊年が続く、初の下直（安い値）の時、八、九年も初を売らず、凶年までに金が足りる程の蓄えさえ有れば、その外に金子を多く持つていては、禍の種となるので、子孫や別家を応援するか、或いは正直の民の貧窮を救うのを本望としなさい。我が子孫の嫡子であつても奢の心が有る者や儉約を好まない者に金など扱かわせる事は滅亡の基である。（略）子孫の者は、農業を習い儉約を好み田畠を自分で耕作することを好んで、初を作りためて高値の時に売ることを楽しみにするようにせよ。金を欲がらないように心がけるべき事を重ねて教訓するように。若い者に金儲けの事を教える事は、大変好まない事である。（略）他人といえども正直な貧民や病民などを救う事を家業の本職と心得るようにせよ。これは子孫繁昌の祈禱である。孔子曰く「丘の禱ること久し（子孫繁昌の事を私は長い間祈っています）」とはこれらの事である。

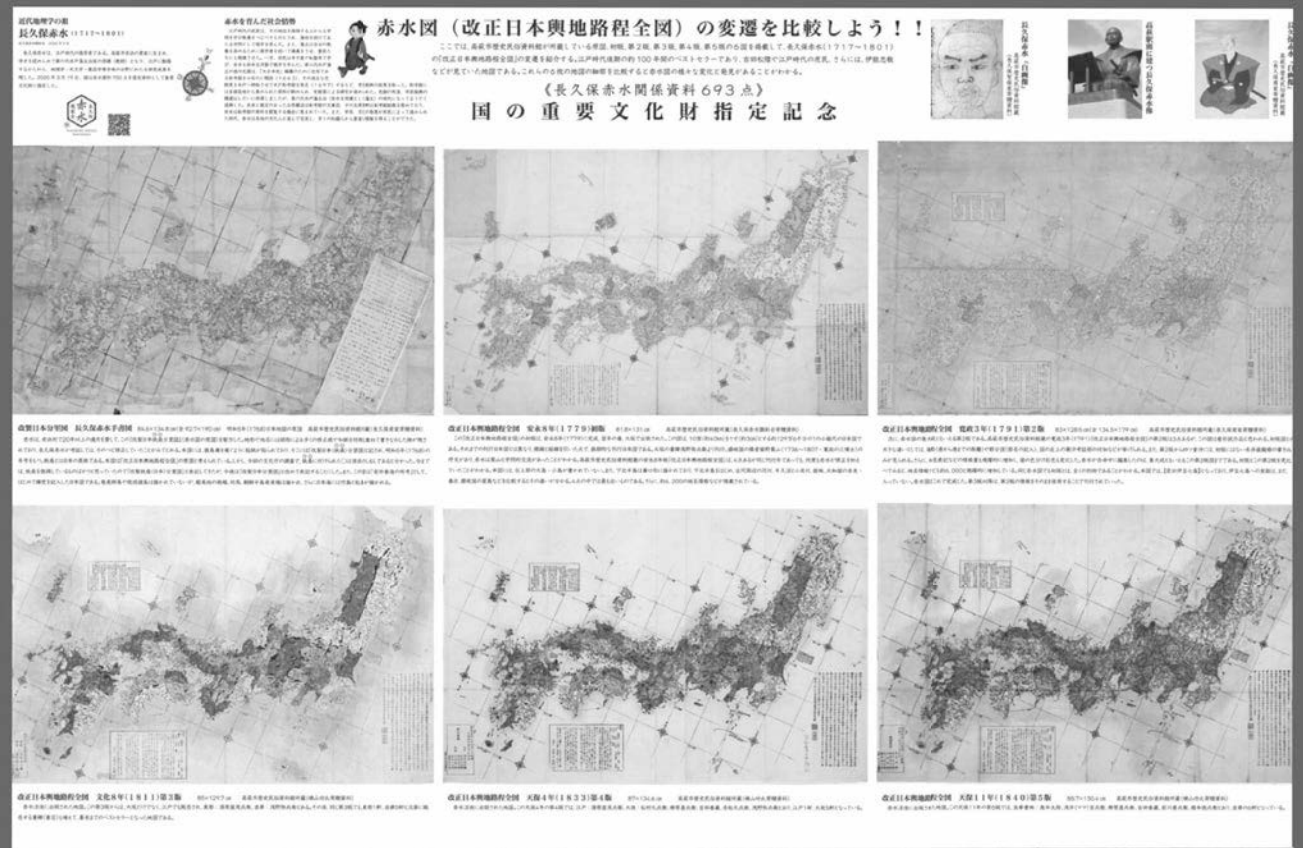


国の重要文化財指定記念 **伊能忠敬より42年前に作り上げた『改正日本輿地路程全図』**  
**原寸大レプリカ【両面刷り・複製図】を定価、1,000円で販売中！**



「赤水図」で吉田松陰の足跡を辿ろう！！

「赤水図」の変遷を比較しよう！





長久保赤水顕彰会  
NAGAKUBO SEKISUI KENKYUKAI

長久保赤水顕彰会の書籍と切手

## 好評発売中

長久保赤水顕彰会では  
 “学ぼう赤水を教科書に載せて広げよう世界へ”  
 を掲げ、「ひよっこ」の次は  
 大河ドラマ「長久保赤水伝」の実現を目指します



各1,000円(税別) オリジナルフレーム切手(1シート)1,300円 マンガ長久保赤水物語500円(税別)

**新聞記事に見る長久保赤水**

令和2年12月1日  
 発行=長久保赤水顕彰会 〒318-0103 茨城県高萩市大能341 佐川春久 電話0293-28-0405  
 印刷=ふじえだ印刷 〒318-0031 茨城県高萩市春日町1-18 電話0293-22-2103

**非売品**



# 長久保赤水

## 重要文化財

### 指定記念

2020.9.30登録